

4.3 現況植生調査

4.3.1 地区別の植生

(1) 釜屋堀公園 PES

1) 概要

児童公園の一角に設けられた PES である。

隣地に接する部分に、トウカエデ、ウバメガシ、ムクノキなどの中高木が植栽された樹木植栽地と、池、池畔の湿地環境が存在していた。樹木のほとんどは植栽されたものであるが、草本類もシヨウブ、セイヨウハッカなど植栽由来のものが多かった。

全体の確認種数は、8月に57種、10月に63種、合計70種であり、10地域中最も種数が多かった一方で、帰化率は16%と2番目の低さであった。

2) 群落の状況

① 樹木植栽地

高木層、亜高木層、低木層、草本層の4層で構成されていた。各層の優占種に、季節変化はなかった。方形区内(10m×5m)で8月に47種、10月に54種を確認し、注目種にはウマノスズクサが該当した。

なお、高木層から低木層においては、過年度ともほとんど変化はなかった。

- ・高木層：トウカエデ、クロマツ
- ・亜高木層：ウメ、ヤマグワ、ウバメガシなど
- ・低木層：ウツギ(優占)、サンゴジュ、オオムラサキなど
- ・草本層：アズマネザサ(優占)、マルバハッカ、ドクダミ、ヒナタイノコズチ、ヤブガラシなど
- ・注目種：ウマノスズクサ(東京都レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類)

② ハンゲシヨウ群落(池畔)

低木層、草本層の2層で構成されていた。低木層は、8月はイヌコリヤナギとヨシが、10月はイヌコリヤナギのみが生育していたが、いずれも植被率は10%と低かった。草本層は10月に草刈りされたこともあり、優占種に変化があった。方形区内(1m×3m)で8月に16種、10月に21種を確認し、注目種にはハンゲシヨウが該当した。

なお、低木層、草本層とも、過年度と大きな変化はなかった。

- ・低木層：イヌコリヤナギ、ヨシ(8月のみ)
- ・草本層
 - 8月：ハンゲシヨウ(優占)、マルバハッカ、イヌゴマ、シヨウブ、セリ、ササガヤなど
 - 10月：マルバハッカ(優占)、ハンゲシヨウ、イヌゴマ、ドクダミ、ヒメジョオンなど
- ・注目種：ハンゲシヨウ(東京都レッドデータブック：絶滅危惧ⅠA類)

③ ショウブ群落

草本層の1層のみで構成されていた。8月、10月とも、ショウブ1種のみを確認したが、10月に草刈りされたため、優占していなかった。方形区は1m×2mとした。ショウブは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが、植栽由来のため注目種として扱わないこととした。

なお、過年度は「ミズキンバイの保護増殖」活動が行われていたとのことであるが、今年度はミズキンバイの生育は確認できなかった。

3) 確認種の傾向など

植栽種である木本類は良く管理され、生育も良好であった。池周囲には人里植物（オオバコ、カタバミ等）や帰化植物（セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン等）が入り込んでいるものの、都市の公園緑地内としては帰化率が16%と低い値であった。周辺から種子が入り込んだと思われる種（アカメガシワ、トウネズミモチ等）もみられ、注目種のウマノスズクサも侵入してきたものと思われる。池畔の湿地にはハンゲショウのほかショウブ、セリ、ヨシ、イヌコリヤナギなどの湿性種が生育しているが規模は小さく、種類は限定的であった。

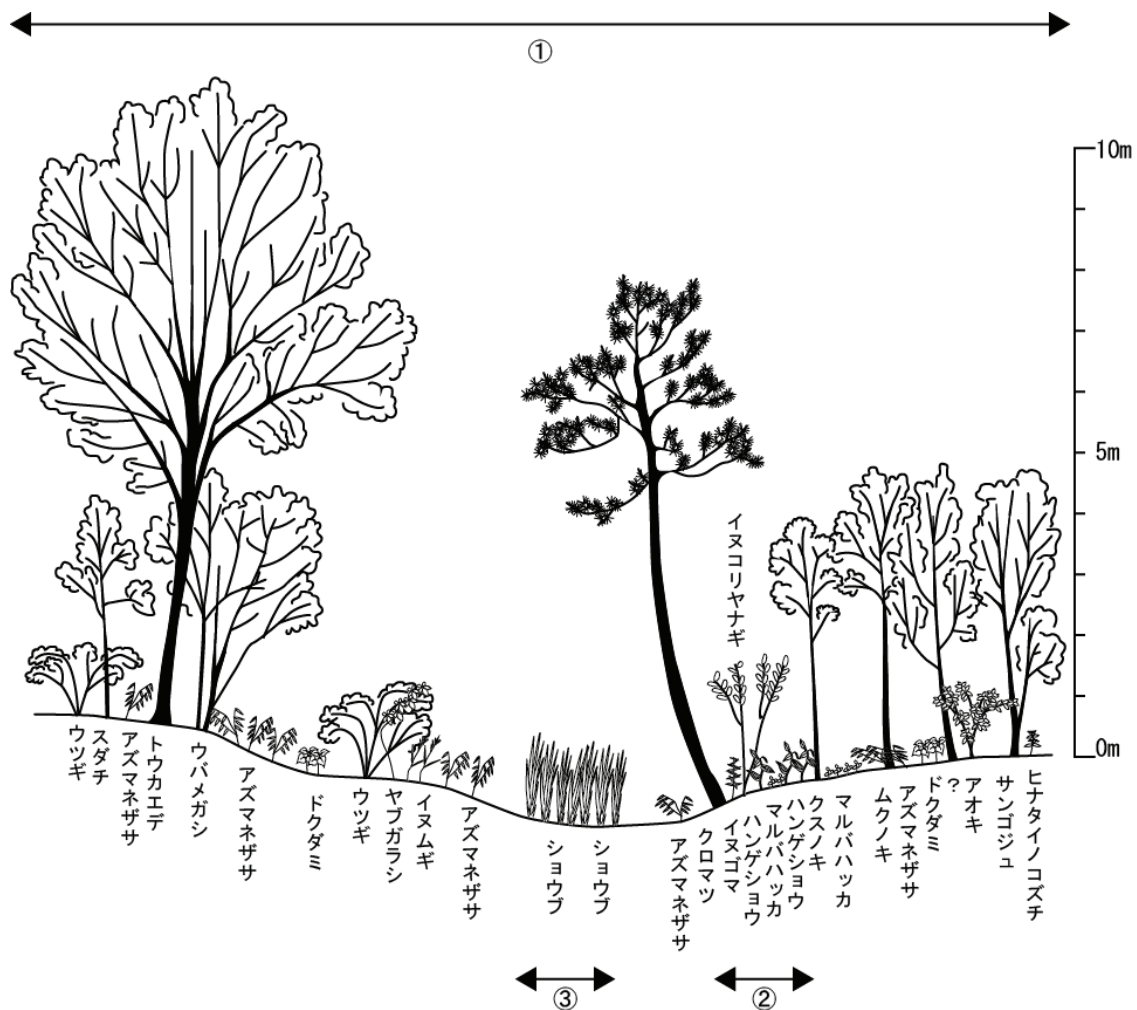


図 4.3.1 釜屋堀公園 PES 断面模式図（8月）

4) 現況からの提言

ボランティアによる除草などの管理作業は継続されているようであった。

確認した注目種のウマノスズクサは草地性の種であり、今後も同程度の刈り取りを実施していくことで、継続して生育すると考える。なお、ウマノスズクサは、ジャコウアゲハの食草である。なお、ハンゲショウ及びショウブについては、水辺・湿地環境の維持が重要である。

(2) 亀高小学校 PES

1) 概要

校庭の西側に設けられた PES で、樹林を基本に水田と 2 つのアサザ池が存在していた。

林内への立ち入りは自由だが、余り入らないように指導されている。樹林の林床は良く掃き清められており、表土はやや固くなっていた。

水域については、水田は 4～10 月までイネが栽培され、冬の間は水が抜かれている。アサザ池はアサザだけでなく、トンボの幼虫（ヤゴ）の保全もしており、水域は良い状態で保たれていた。

全体の確認種数は、8 月に 51 種、10 月に 53 種、合計 60 種であり、10 地域中 2 番目に多かった。帰化率は 21% と 3 番目に低かった。

2) 群落の状況

① 学校樹林

高木層、亜高木層、低木層、草本層の 4 層で構成されていた。各層の優占種に、季節変化はなかった。方形区内（10m×10m）で 8 月に 31 種、10 月に 32 種を確認した。注目種の確認はなかった。

なお、高木層から低木層においては、過年度とも変化は殆どなかった。草本層は過年度優占種であったコチヂミザサとヒゴクサは確認できず、構成種にも変化が見られた。

- ・高木層：フウ(優占)
- ・亜高木層：サワラ
- ・低木層：オオムラサキ、ウツギ、コナラ、ウメ
- ・草本層：スゲ属、クサイ、アズマネザサ、ナキリスゲ、ヤブガラシ、ドクダミなど

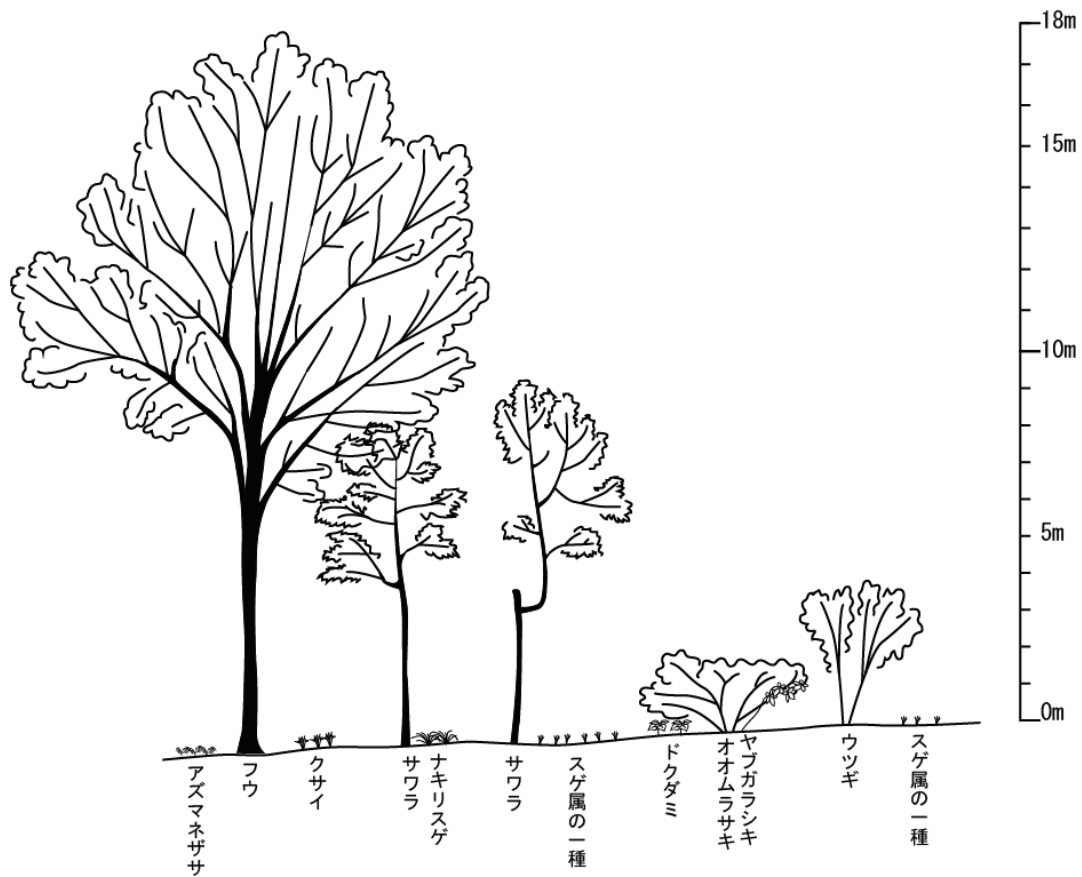


図 4.3.2 亀高小学校 PES 断面模式図 (8月)

② 学校水田

②-1 水田雑草群落

草本層の1層で構成されていた。8月は栽培種のイネが優占していたが、10月に刈り取られており優占していなかった。方形区内 (7m×3m) で8月、10月ともに5種を確認した。注目種の確認はなかった。

なお、過年度の8月に確認されていたヘラオモダカ、アサザは確認できなかった。

- ・草本層：イネ(優占)、アオウキクサ(8月のみ)、セリ、コナギ、アメリカタカサブロウ、ドクダミ(10月のみ)

②-2 畦畔雑草群落

草本層の1層で構成されていた。8月、10月ともにドクダミが優占していた。

方形区内 (0.2m×20m) で8月に23種、10月に24種を確認した。注目種は確認されなかった。なお、過年度の8月に確認されていたスギナ、イヌビエ、オオバコなどは今年度も確認したが、優占種や構成種は大きく変化していた。

・草本層

8月：ドクダミ(優占)、マルバハッカ、イヌタデ、スズメノヒエ、スゲ属の一種、アメリカタカサブロウ、ヤブガラシ、ヨモギ、スギナなど

10月：ドクダミ(優占)、マルバハッカ、アメリカタカサブロウ、ヤブガラシ、ヨモギ、ヘビイチゴなど

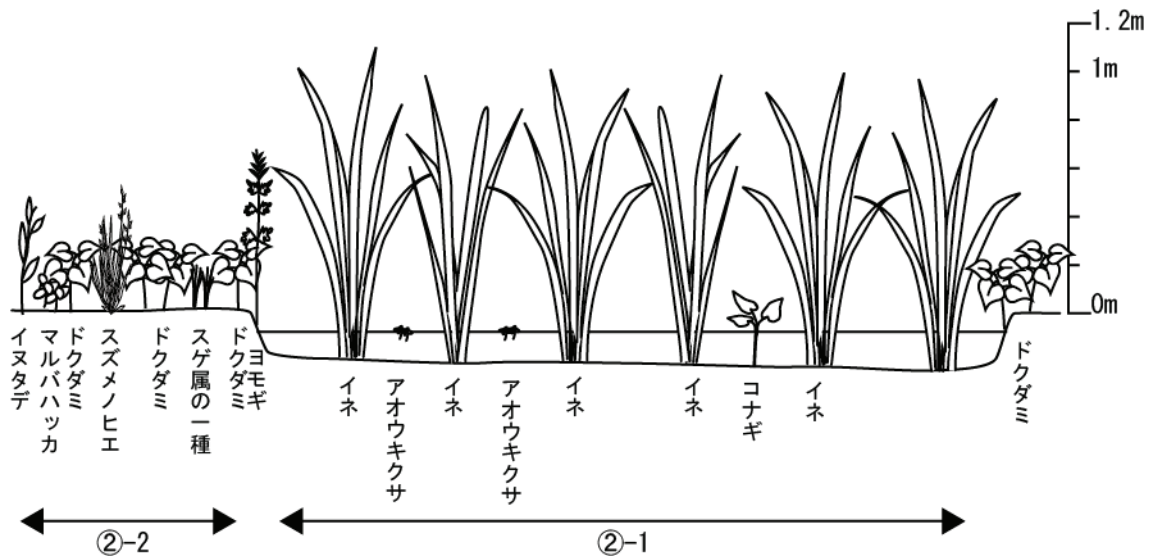


図 4.3.3 亀高小学校 PES 断面模式図 (8月)

③ 学校池沼

③-1 ヨシ・ヒメガマ群落

草本層の1層で構成されていた。8月は大型抽水植物のヨシ、ヒメガマに交じり、アサザの3種が優占していたが、10月には刈り取られて優占種はアサザ1種となった。方形区内(2m×2m)で8月、10月ともに5種を確認した。注目種の確認はなかった。

なお、過年度の8月に確認されていたイヌタヌキモの確認はなかった。

- ・草本層：ヨシ・ヒメガマ(8月のみ優占)、アサザ(8,10月との優占)、セリ、ウキクサ(8月のみ)、スギナ(10月のみ)
- ・注目種：アサザ(環境省レッドリスト：準絶滅危惧、東京都レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類)

③-2 アサザ群落

草本層の1層で構成されていた。8月、10月ともにアサザが優占していたが、8月はヒメガマの優占度も高かった。方形区内(2m×2m)で8月に6種、10月に7種を確認した。注目種はヘラオモダカとアサザが該当した。

なお、過年度の8月に確認されていたイヌタヌキモの確認はなかった。

- ・草本層：アサザ(8,10月との優占)、ヒメガマ(8月のみ優占)、ヘラオモダカ、セリ、セイヨウミズユキノシタ、ウキクサ(8月のみ)、イ・クサヨシ(10月のみ)
- ・注目種：アサザ(環境省レッドリスト：準絶滅危惧、東京都レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類)

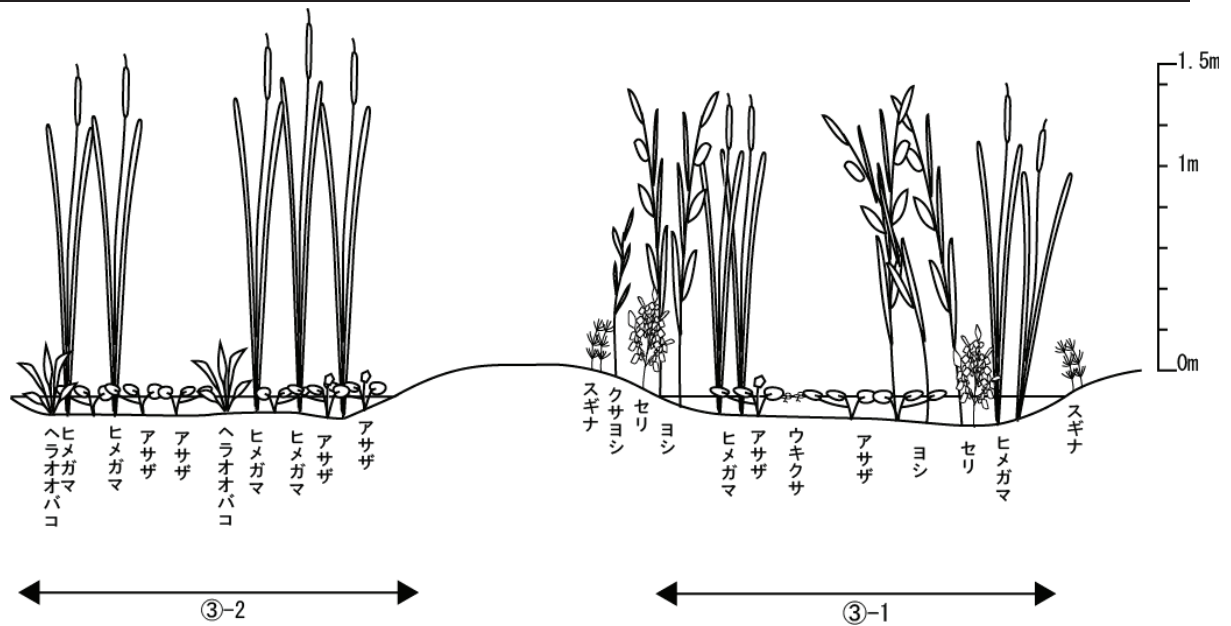


図 4.3.4 亀高小学校 PES 断面模式図（8月）

3) 確認種の傾向など

「樹林」の構成種のほとんどが植栽されたものであり、林床も管理されていることから、変化に乏しい樹林となっていた。なお、林床は掃き清められるため、構成種は安定していない。

「水田」では、栽培されている稲以外の殆どが「水田雑草」として水耕栽培のサイクルに適応して生活している種であった。「畦畔」では、セリ、チョウジタデ、イヌビエなどの「水田雑草」も見られたが、大半はヨモギ、ヘビイチゴ、スズメノヒエ、オオバコ、カタバミなどの草地性の種であった。

「池沼」では、夏季にはアサザのほか、大型抽水植物のヨシとヒメガマも繁茂していた。また、小さい方の池で注目種のヘラオモダカを確認した。

4) 現況からの提言

「樹林」の林内には園路と堆肥場が設けられていた。樹木の成長は良く、良好に管理されているため、今後も同程度の維持管理作業を実施していくことが望まれる。

「水田」では毎年定期的に利用が繰り返されるため、水耕栽培のサイクルに適応して生活しているコナギなどの水田雑草や攪乱依存性の一年生の水草にとっては、貴重な生育場となっている。今後も同様に利活用していくことが望まれる。

「池沼」では通年に渡り水域が確保され、人が立ち入らないことなどから PES としての価値は十分にあると考える。ただし、水深が浅いため夏季には大型の抽水植物が繁茂してしまう恐れがある。アサザの健全な生育とトンボ類の生息場を確保するため、ヨシやガマの仲間は定期的に刈り取る必要があると考える。

(3) 清澄庭園

1) 概要

東京都の名勝に指定されている庭園で、一般公開されている。

調査地は、庭園の南端にある「自由広場」の中で、ソメイヨシノが植栽されている場所である。なお、広場の草地部分にシバは殆どないものの短く刈り込まれ、芝生状になっていた。立ち入り可能であるが、花見などの特定の時期を除くと、立ち入る人は少ない。

2) 群落の状況

高木層、草本層の2層で構成されていた。高木層は植栽種のソメイヨシノが優占し、各季とも植被率は90%と高かった。草本層の植被率は各季とも20%で、チドメグサが多かったほかは、季節で構成種は若干変化していた。方形区内(10m×10m)で8月に19種、10月に27種を確認し、合計は29種であった。注目種はなく、帰化率は38%と2番目に高かった。

なお、草本層においては、過年度の10月に確認されているチドメグサ、ヒメジョオン、カタバミ、チチコグサモドキ、シロツメクサ、コナスビ、ワルナスビは今年度の10月調査時にも確認された。

- ・高木層：ソメイヨシノ
- ・草本層

8月：チドメグサ、メヒシバ、エゾノギシギシ、カタバミ、セイヨウタンポポなど

10月：チドメグサ、ヒメジョオン、コナスビ、カタバミ、セイヨウタンポポなど

3) 確認種の傾向など

雑草草地は短く刈り込まれており、種群は安定していた。

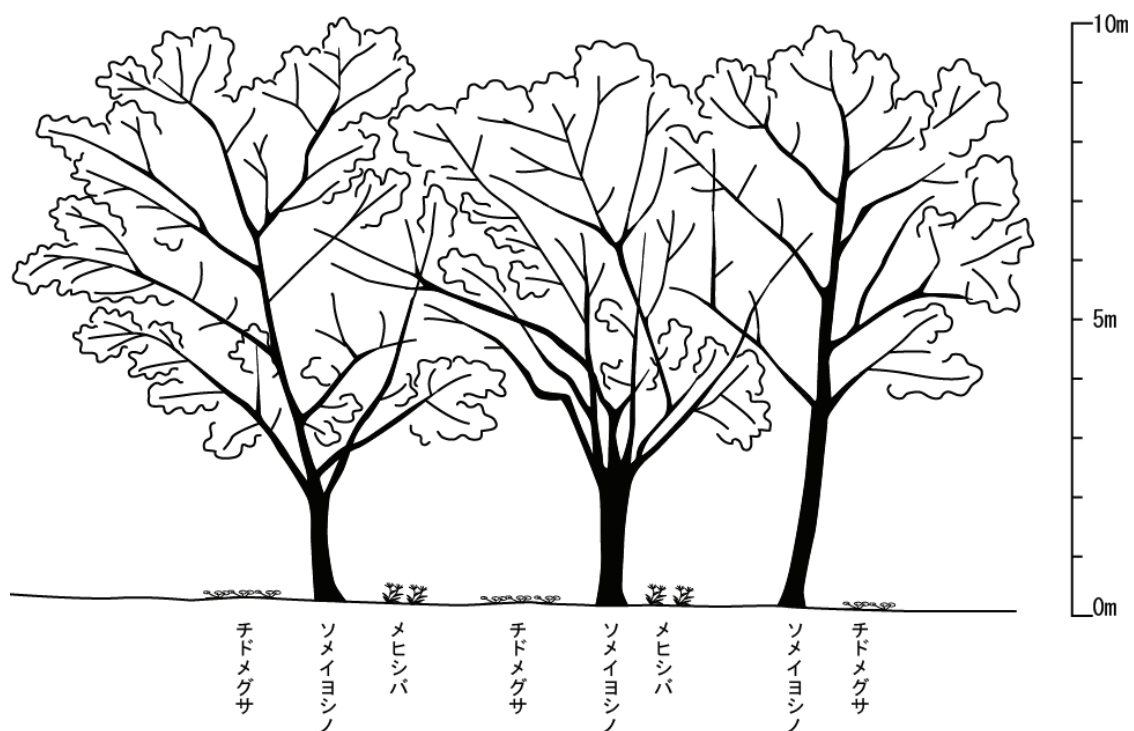


図 4.3.5 清澄庭園断面模式図 (8月)

4) 現況からの提言

棘のある外来種のワルナスビが今年度もみられた。広場として利用される場所であることから、選択的な除草が望まれる。

(4) 富岡八幡宮

1) 概要

本殿東側の神域内の樹林で、ほぼ植栽起源と考えられる。

高木層は、大高木層を形成しているイチョウとそれ以外の高木層形成樹種とに分かれている。亜高木層以下は良く管理され、特に草本層は日常的に掃き清められているため、植被率は極めて低く抑えられている。

2) 群落の状況

高木層より突出しているイチョウを大高木層とし、以下は通常の高木層、亜高木層、低木層、草本層の5層で構成されていた。大高木層以下、低木層までは植栽種で構成され、構成種の季節変化はなかった。草本層の植被率は各季とも10%で、季節変化は僅かであった。方形区内(10m×10m)で8月に26種、10月に25種を確認し、合計は27種であった。注目種はなかったが、帰化率は11%と最も低かった。

なお、過年度の8月に確認されている樹木は、今年度もほとんどの種を確認している。

- ・高木層：イチョウ(大高木層にもあり)、ケヤキ、エノキ
- ・亜高木層：トウネズミモチ(優占)、カヤ、サンゴジュ、シラカシ、イチョウなど
- ・低木層：アオキ、トウネズミモチ、サカキ、ヤツデ、カヤ、カクレミノ、ヤマグワ
- ・草本層：エノキ、ナキリスゲ、ノシラン、トウネズミモチ、タブノキ、クスノキなど

3) 確認種の傾向など

社寺の神域として一般には公開されていない場所であり、良く管理されていることから、種群は安定していた。

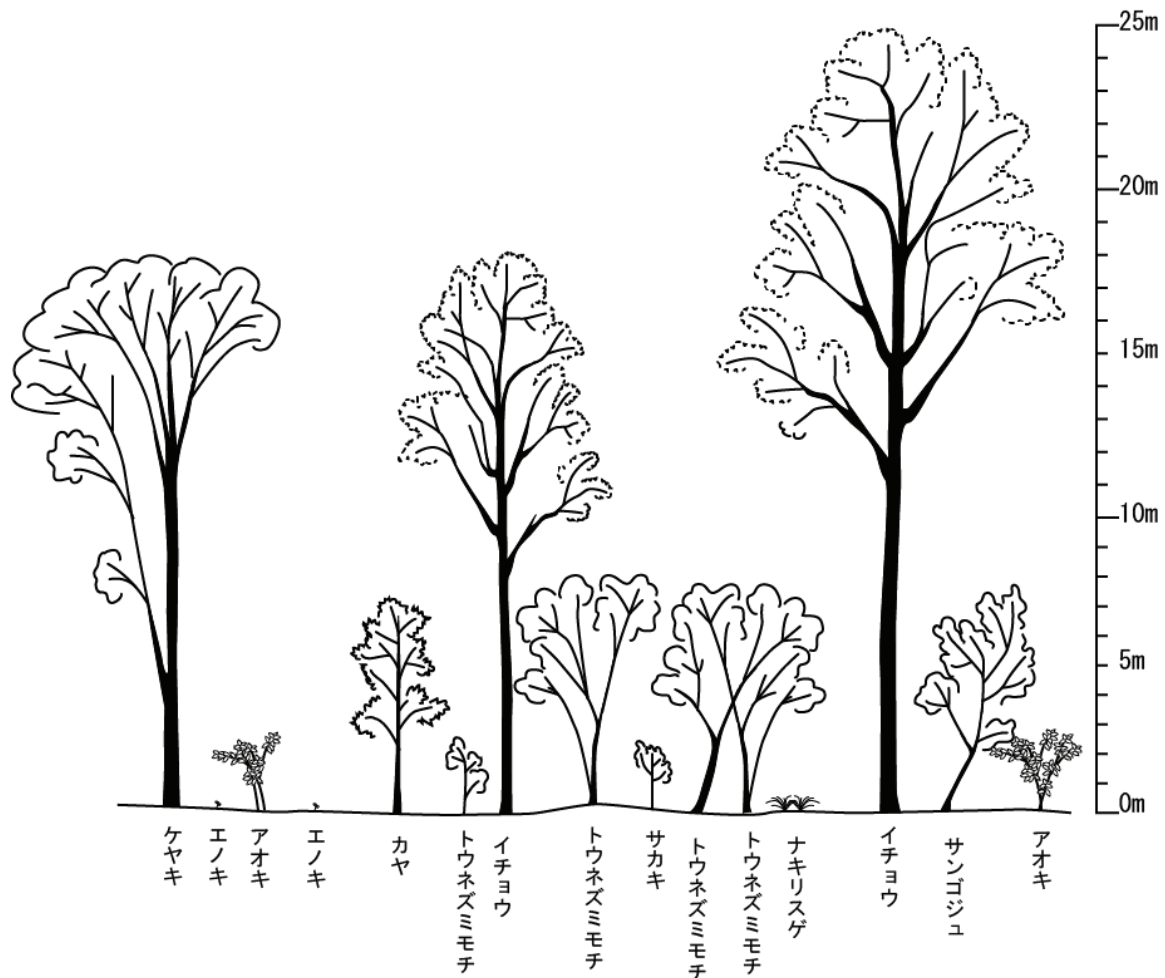


図 4.3.6 富岡八幡宮断面模式図 (8月)

4) 現況からの提言

特になし。

(5) 仙台堀川公園 PES

1) 概要

区立仙台堀川公園の西端に位置する PES で、高木はなく、亜高木層からなる樹林と池、乾生草地が存在していた。池にはヨシやコゴメイなどの水生・湿生植物が植栽され、周りは起伏のある草地となっていた。一般の公園ほど人の立ち入りはないものの、踏み分け道を中心にある程度の立ち入りは認められる。なお、水生植物や外周に植栽された木本以外は、植栽起源か侵入して定着したものかは明らかでない。

全体の確認種数は、8月に41種、10月に45種、合計54種であり、10地域中3番目に種数が多かった。帰化率は24%であった。

2) 群落の状況

① アゼナルコ群落

草本層の1層のみで構成され、8月、10月ともアゼナルコが優占していた。方形区内(1m×3m)で8月に9種、10月に12種を確認し、注目種の確認はなかった。

なお、過年度はサンカクイやトチカガミも生育していた。

・草本層

8月：アゼナルコ(優占)、ヨシ、セリ、コガマ、スギナ、コゴメイ、ツルマメなど

10月：アゼナルコ(優占)、ヨシ、セリ、コガマ、スギナ、スゲ属の一種、アレチギシギシなど

② チガヤ群落

草本層の1層で構成されている。8月、10月ともチガヤが優占し、植被率は100%と高かった。また、構成種の季節変化は僅かであった。方形区内(5m×5m)で8月に17種、10月に19種を確認し、注目種の確認はなかった。

なお、過年度はススキ、スズメノヒエ、ドクダミなども確認されていた。

・草本層：チガヤ(優占)、セイタカアワダチソウ、メドハギ、ツルマメ、キンミズヒキ、ヨモギ、ヘクソカズラなど

③ ヤマグワ群落

亜高木層、低木層、草本層の3層で構成されていた。亜高木層、低木層の構成種に季節変化はほとんどなかったが、草本層では優占種に変化があった。方形区内(8m×4m)で8月に24種、10月に28種を確認し、注目種の確認はなかった。

なお、過年度においても、亜高木層・低木層ではヤマグワが、草本層ではススキとメドハギが確認されていた。

・亜高木層：ヤマグワ、アカメガシワ

・低木層：ヤマグワ、アカメガシワ、シャリンバイ、アキニレ、トウネズミモチなど

・草本層

8月：チガヤ(優占)、セイタカアワダチソウ、カモジグサ、ススキ、メドハギなど

10月：ヒメヒオウギズイセン(優占)、セイタカアワダチソウ、チガヤ、ススキ、チカラシバなど

3) 確認種の傾向など

低木層のシャリンバイ、ナワシログミ、草本層のヒメヒオウギズイセンは植栽由来と考えられる。亜高木層を構成するヤマグワとアカメガシワは陽樹で、伐採跡地などにいち早く侵入して生育するパイオニア種であることから、実生由来と考えられる。

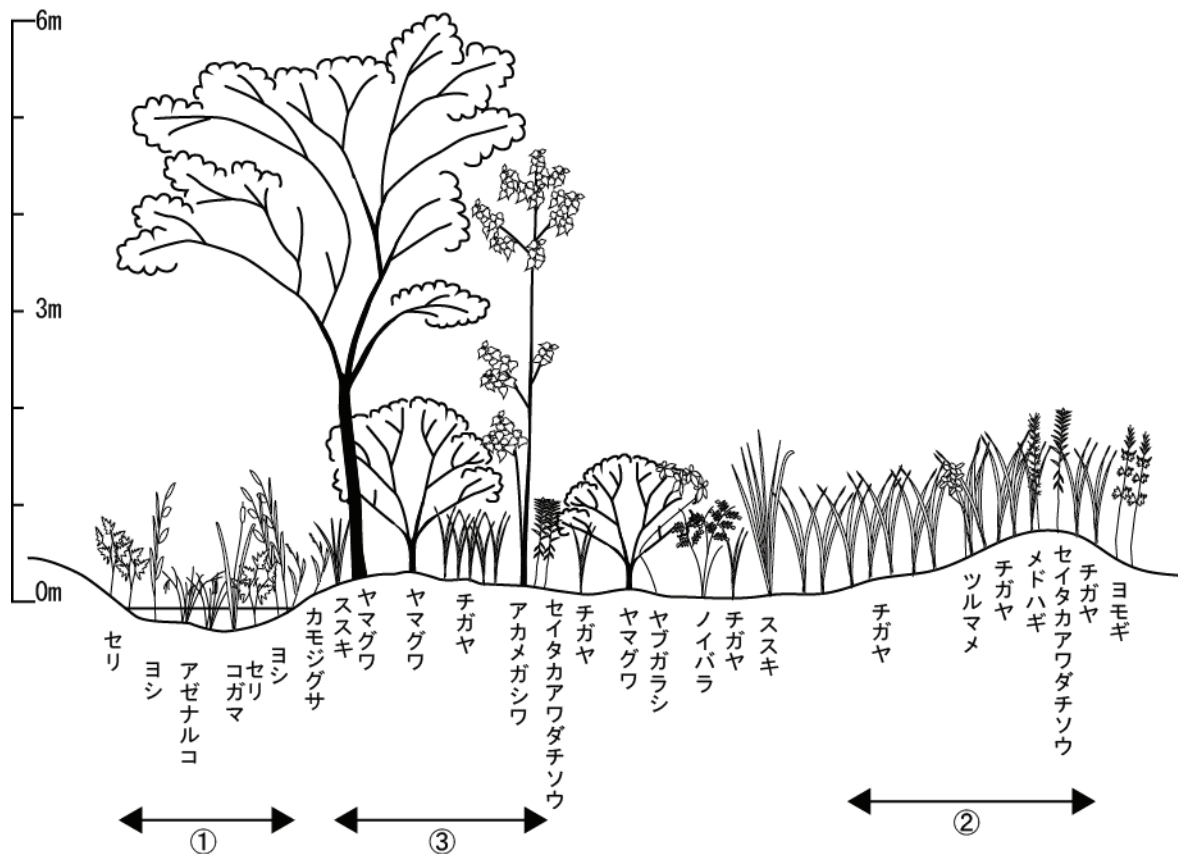


図 4.3.7 仙台堀川公園 PES 断面模式図 (8月)

4) 現況からの提言

ボランティアによる除草などの管理作業は継続されている様子であった。池も水深は浅いものの通年に渡り水域が確保されていた。アオモンイトトンボ、ナツアカネなどのトンボ類のほか、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルも確認されたことから、良好なビオトープが維持されるよう、今後も同程度の管理作業が実施されていくことが望まれる。

(6) 荒川砂町水辺公園「砂村」PES

1) 概要

区立荒川砂町水辺公園の北部に位置する PES で、調査地を含む一帯は一応ロープ柵が設置されているが、立ち入りは可能である。近くに「昆虫の食草場」があり、水路上の水域が長く続いている。荒川河川敷には、江東区によって植栽され、その後 PES として保護されている草地が続いている。今年度は、8m×8mで調査可能なヨシ群落が見当たらなかったこと、草地環境が多様であったことから、3種の草本群落にて調査を実施した。

全体の確認種数は、8月に17種、10月に20種、合計23種であり、10地域中2番目に種数が少なかった。帰化率は17%であった。

2) 群落の状況

① オギ群落

草本層の1層のみで構成され、8月、10月ともオギが優占していた。植被率は100%と高く、構成種も季節変化はほとんどなかった。方形区内(6m×8m)で8月に14種、10月に17種を確認し、注目種の確認はなかった。

- ・草本層：オギ(優占)、セイタカアワダチソウ、クズ、チガヤ、メドハギ、ヤブガラシなど

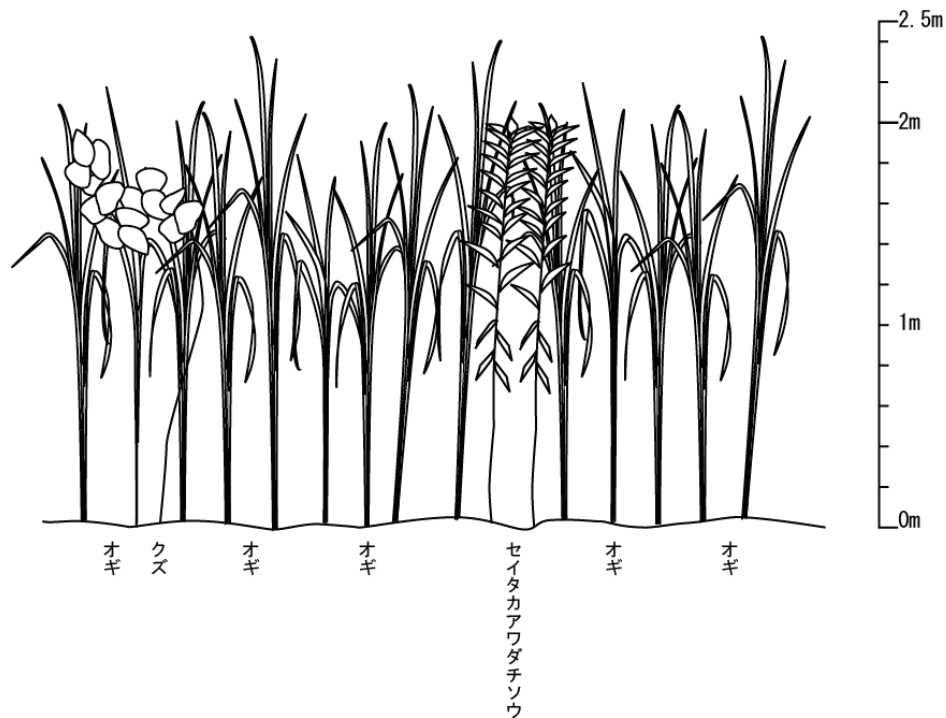


図 4.3.8 荒川砂町水辺公園「砂村」PES 断面模式図(8月)

② コゴメイ群落

草本層の1層で構成され、8月、10月ともコゴメイが優占していた。植被率は80~95%と高く、構成種も季節変化は僅かであった。方形区内(1m×3m)で8月に5種、10月に7種を確認し、注目種の確認はなかった。

- ・草本層：コゴメイ(優占)、ヨシ、アゼナルコ、ヘクソカズラ、セイタカアワダチソウなど

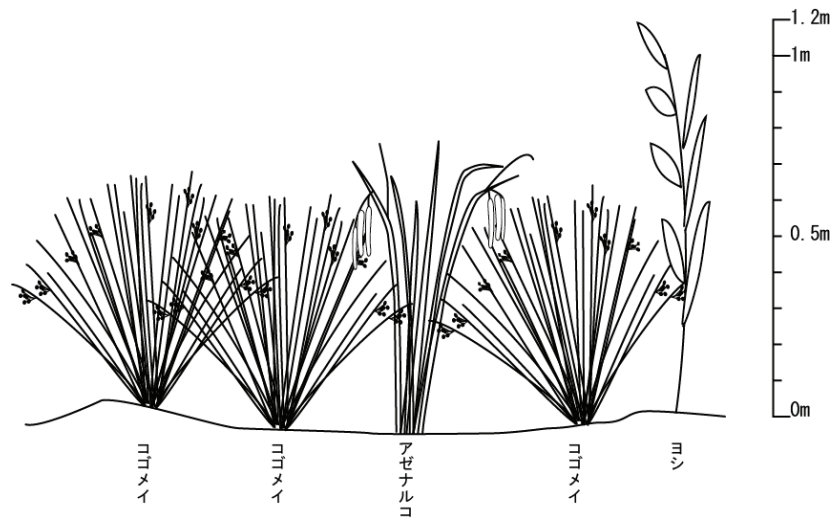


図 4.3.9 荒川砂町水辺公園「砂村」PES 断面模式図（8月）

③ ヨシ群落

草本層の1層で構成され、8月、10月ともヨシが優占していた。刈り取りされた場所で植生高は低く、構成種もヨシのほかはコゴメイのみであった。方形区は4m×4mで、注目種の確認はなかった。



図 4.3.10 荒川砂町水辺公園「砂村」PES 断面模式図（8月）

3) 確認種の傾向など

調査地一帯は一般の立ち入りが制限され、当初植栽されたヨシなどが密生しているため、各調査区とも出現種数は少なかった。

4) 現況からの提言

他の PES に比べ面積が広く、荒川に面していることなどから、昆虫類を始めとした動物類の生息地として適していると考えられる。一方で、水路に水の流れはほとんどなく、草地におい

でもクズが繁茂しているところがあるなど、乾燥化と藪化が進んでいる。状況に応じた維持管理作業の実施が望まれる。

(7) 荒川砂町水辺公園 PES

1) 概要

区立荒川砂町水辺公園の南側で、調査地を含む一帯は一応ロープ柵が設置されているが、立ち入りは可能である。調査地の西側には小さな水路が設けられていた。⑥と同様、江東区によって植栽された草地が続いていた。今年度はヨシ群落が見当たらなかったこと、水路内と他では草地環境に違いがあったことから、草本群落3地点にて調査を実施した。

全体の確認種数は、8月に30種、10月に38種、合計42種であった。帰化率は36%で3番目に高かった。

2) 群落の状況

① ヤマアワ群落

草本層の1層のみで構成され、8月、10月ともヤマアワとコゴメイが優占していた。植被率は90~100%と高く、構成種も季節変化はほとんどなかった。方形区内(1m×5m)で8月に15種、10月に16種を確認し、注目種の確認はなかった。

- ・草本層：ヤマアワ・コゴメイ(優占)、ツルマメ、セイタカアワダチソウ、ヤハズソウ、コブナグサ、コセンダングサなど

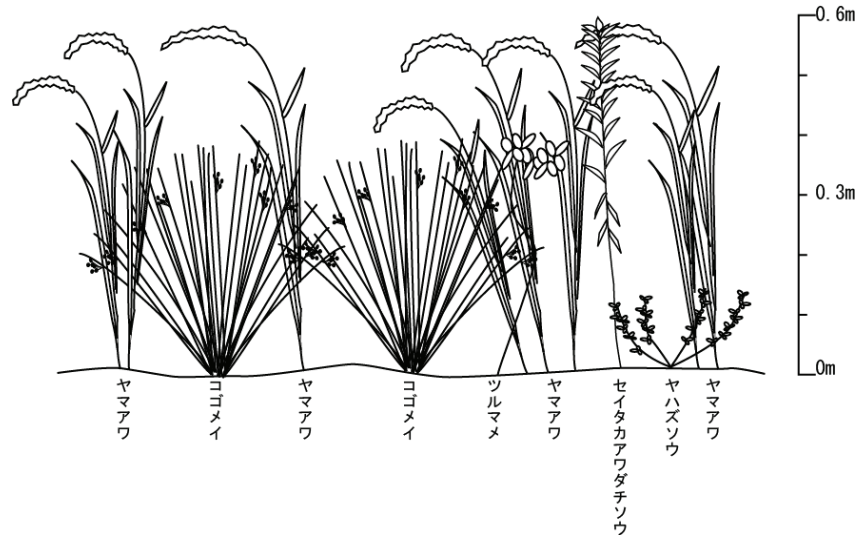


図 4.3.11 荒川砂町水辺公園 PES 断面模式図 (8月)

② セイタカアワダチソウ群落 (刈取あり)

草本層の1層で構成され、8月、10月ともセイタカアワダチソウとコセンダングサが優占していた。刈り取りされ、植生高は0.5~0.6mと低く抑えられていた。植被率は100%と高く、構成種も季節変化はほとんどなかった。方形区内(2m×5m)で8月に19種、10月に26種を確認した。帰化植物が多く、注目種に確認はなかった。

- ・草本層：セイタカアワダチソウ・コセンダングサ(優占)、ツルマメ、シバ、コセンダングサ、ブタクサ、ムラサキツメクサ、アレチハナガサなど

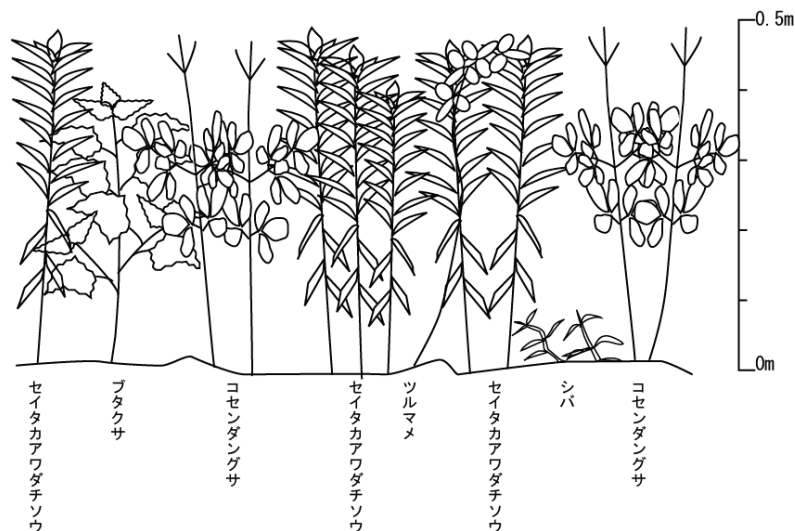


図 4.3.12 荒川砂町水辺公園 PES 断面模式図 (8月)

③ セイタカアワダチソウ群落（刈取なし）

草本層の1層で構成され、8月、10月ともセイタカアワダチソウが優占していた。刈り取りされておらず、植生高は2~3mと高く、植被率も100%と高かった。構成種も季節変化はほとんどなかった。方形区内（5m×5m）で8月に11種、10月に15種を確認した。注目種に確認はなかった。

- ・草本層：セイタカアワダチソウ（優占）、ススキ、ヘクソカズラ、ヤマアワ、ノイバラ、ツルマメ、オギなど

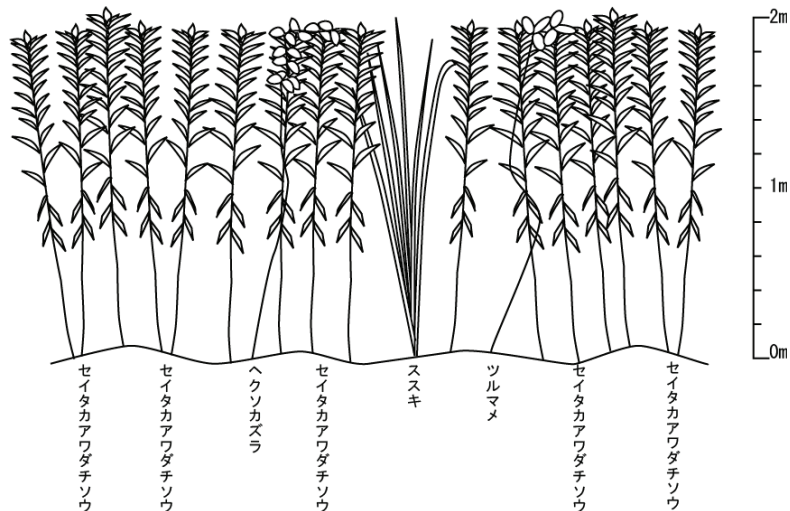


図 4.3.13 荒川砂町水辺公園 PES 断面模式図（8月）

3) 確認種の傾向など

調査地一帯は一般の立ち入りが制限されているが、当初植栽されたヨシなどは、セイタカアワダチソウやコゴメイなどの帰化植物に置き換わっていた。

4) 現況からの提言

荒川に面しているため、昆虫類を始めとした動物類の生息地として適していると思われる。植生調査時にはカナヘビを確認した。しかし、水路に水はほとんどなく、草地においてもセイタカアワダチソウが繁茂するなど、乾燥化が進んでいる。状況に応じた維持管理作業の実施が望まれる。

(8) 新砂下水道用地

1) 概要

東京都の下水道施設用地の南端に位置する未利用地の草地である。荒川と砂町運河に挟まれた乾生草地であるが、強風や台風の時には汽水にさらされることもある。なお、河川や運河に面する部分はコンクリート擁壁で立ち上がっており、直接水域に接する部分はない。

過年度は、乾生草地として「ススキ群落」を、湿生草地として「ヨシカブダチアッケシソウ群落」を調査していたが、今年度はススキとカブダチアッケシソウが見当たらなかつたことから乾生草地として「チガヤ群落」を、湿生草地として「ヨシ群落」を調査した。

全体の確認種数は、8月に23種、10月に27種、合計29種であった。帰化率は45%で最も高かった。

2) 群落の状況

① チガヤ群落（内陸側）

草本層の1層のみで構成され、8月、10月ともチガヤが優占していた。植被率は100%と高く、構成種も季節変化はほとんどなかった。方形区内（5m×5m）で8月に8種、10月に12種を確認し、注目種はなかった。

・草本層：チガヤ（優占）、ヤマアワ、セイタカアワダチソウ、ススキ、ヨモギなど

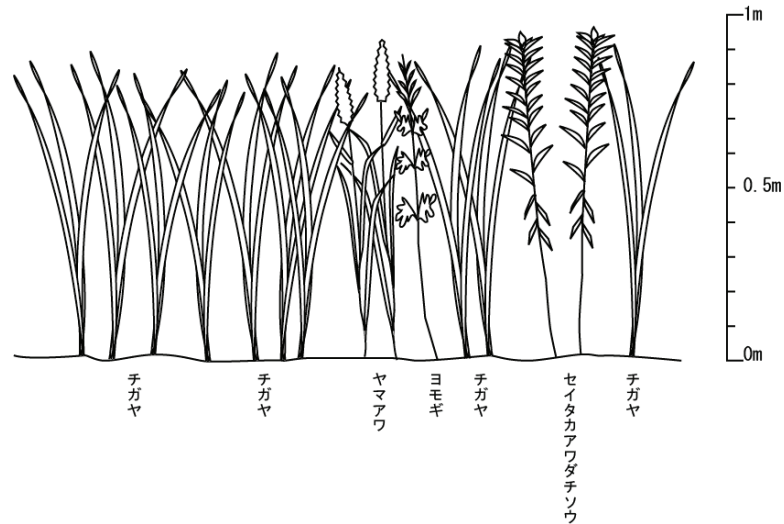


図 4.3.14 新砂下水道用地断面模式図（8月）

② ヨシ群落

草本層の1層で構成され、8月、10月ともヨシが優占していた。植被率は100%と高く、その他の構成種はセイタカアワダチソウ、チガヤ、ヨモギなど草地生の種であった。方形区内（5m×5m）で8月に4種、10月に7種を確認した。注目種に確認はなかった。

・草本層：ヨシ（優占）、セイタカアワダチソウ、チガヤ、ヨモギ、ヤハズエンドウ・セイヨウタンポポ・ヤブジラミ（10月のみ）



図 4.3.15 新砂下水道用地断面模式図（8月）

③ チガヤ群落（河川側）

草本層の1層で構成され、8月はチガヤとコセンダングサが、10月はチガヤが優占していた。植被率は80%と高かった。構成種は季節により若干変化した。方形区内（3m×3m）で8月に17種、10月に22種を確認した。注目種はなかった。

・草本層

8月：チガヤ・コセンダングサ（優占）、セイトカアワダチソウ、オギ、セイヨウタンポポなど

10月：チガヤ（優占）、コセンダングサ、アキノエノコログサ、セイトカアワダチソウ、オギ、セイヨウタンポポ、キンエノコロ、オギなど

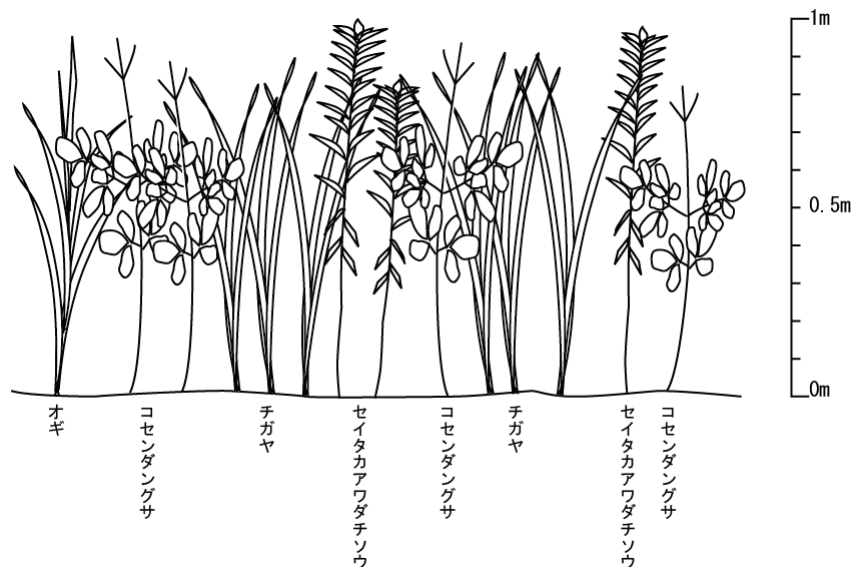


図 4.3.16 新砂下水道用地断面模式図（8月）

3) 確認種の傾向など

調査地一帯は施設を通り抜けないと到達できないため、一般には立ち入りできない。過年度はカブダチアッケシソウが生育するなど湿地環境が見られたが、今年度は乾燥化していた。

4) 現況からの提言

この場所は東京都の用地で、民地に比べ開発等が行われておらず、植生面からは恵まれた状況下にあると言える。荒川の河口部に面しているため、汽水域に特有の昆虫類や動物類の生息地として適していると思われるが、乾燥化が進み、帰化種も多いことから、状況に応じた維持管理作業の実施が望まれる。

(9) 潮見さざなみ公園 PES

1) 概要

砂町運河に面して作られた潮見さざなみ公園の一部に設けられた PES である。

水域にはヨシやヒメガマなどの湿生植物が植栽され、中央に中島が設けられていた。水域の外周には散策路が設けられ、湿生植物を周りから観察できる。この水域にもトンボ類の飛来が見られ、産卵場所にもなっていた。

調査は水域、池縁湿地、周辺草地の3群落で実施した。全体の確認種数は、8月に37種、10月に40種、合計44種であった。帰化率は30%であった。

2) 群落の状況

① ヨシ群落

草本層1層及び第2層の2層で構成され、8月、10月とも第1層はヨシが、第2層はヒメガマが優占していた。植被率は、第1層は30%でヨシのみ、第2層は100%と高く構成種に季節変化はほとんどなかった。方形区内(3m×5m)で8月、10月とも10種を確認し、注目種はタコノアシとマツカサススキが該当した。

- ・草本第1層：ヨシ(優占)
- ・草本第2層：ヒメガマ(優占)、オオフサモ、コゴメイ、マツカサススキ、ノブドウなど
- ・注目種：タコノアシ(環境省及び東京都レッドデータブック：準絶滅危惧)、マツカサススキ(東京都レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類)

② ヒメクグ群落

草本層の1層で構成され、8月はヒメクグとチガヤが、10月はヒメクグが優占していた。植被率は80~90%と高かったが、季節により生育量や出現種に若干の変化が見られた。方形区内(1m×3m)で8月、10月とも12種を確認し、注目種はハンゲショウ(8月のみ)が該当した。

- ・草本層：ヒメクグ(優占)、チガヤ(8月のみ優占)、コゴメイ、コウガイゼキショウ、ユメノシマガヤツリ、セリなど
- ・注目種：ハンゲショウ(東京都レッドデータブック：絶滅危惧ⅠA類)

③ メドハギ群落

草本層1層及び第2層の2層で構成され、8月、10月とも第1層はメドハギが、第2層はオニウシノケグサが優占していた。植被率は、第1層は40%、第2層は70~80%であった。構成種は、第1層には季節変化がほとんどなかったが、第2層では若干の変化がみられた。方形区内(2m×5m)で8月は21種、10月は24種を確認し、注目種の確認はなかった。

- ・草本第1層：メドハギ(優占)、コセンダングサ、アキニレ、イヌキクイモ、ススキなど
- ・草本第2層
 - 8月：オニウシノケグサ(優占)、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、メドハギ、コセンダングサ、ムラサキツメクサなど
 - 10月：オニウシノケグサ(優占)、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、メドハギ、ヨモギ、シバなど

3) 確認種の傾向など

調査地に生育する植物の多くは植栽起源であるが、次第に周囲から様々な植物が侵入してきている。注目種のタコノアシやマツカサススキは、植栽された植物の土壤に種子が混入していた可能性がある。

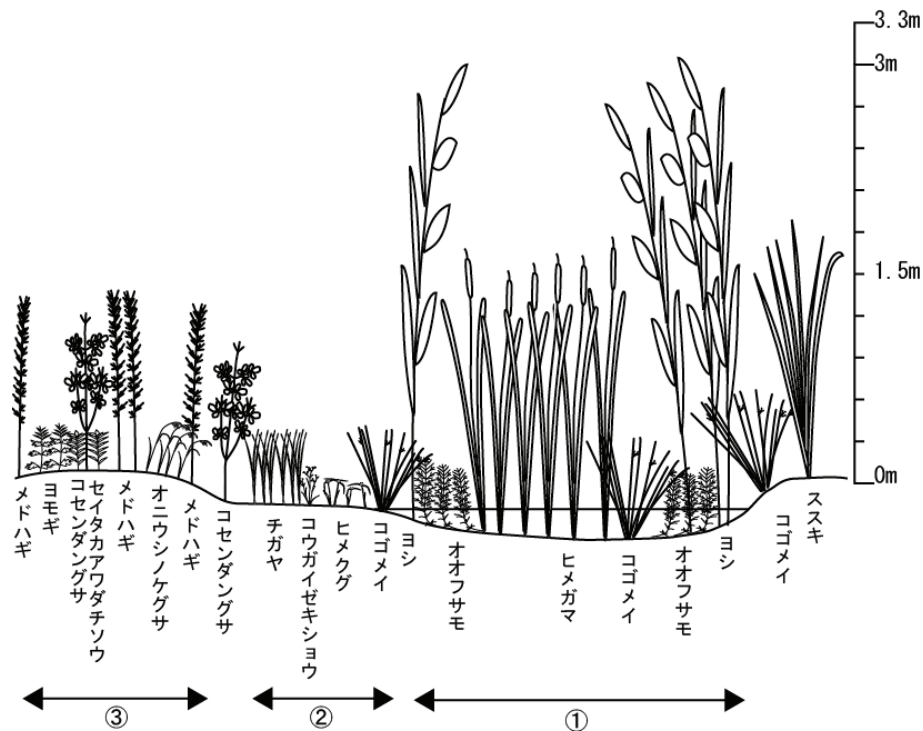


図 4.3.17 潮見さざなみ公園 PES 断面模式図 (8月)

4) 現況からの提言

調査地の水域は淡水であり、トンボ類などの産卵場に適している。また、導入された水生・湿生植物の生育も良好である。ただし、外来生物法で特定外来生物に指定されている「オオフサモ」が水域に広く繁茂していたことから、本種の駆除対策は必要と考える。

(10) 若洲橋周辺

1) 概要

新木場地区の南端にある若洲橋のたもとの乾生草地。東京湾に面したコンクリート擁壁下であり、消波用の石上に堆積した土に植物が侵入して草地化していた。擁壁近くには好陽性のヌルデやニセアカシアなどの木本も見られた。

群落のフロントから砂町南運河の汀線までは、干潮時で4~5m、満潮時は1~2m程度であり土壌は塩分の影響を受けていると考えられる。さらに運河が荒れた際には、海水の飛沫もかかる場所である。

なお、過年度は汀線から離れた内陸側で調査していた。今年度はハチジョウススキが密に生育し、立ち入りが困難だったため、調査可能な汀線寄りの地点で調査した。

2) 群落の状況

草本層の1層のみで構成され、8月、10月ともハチジョウススキが優占していた。植被率は100%と高かったが、構成種は季節により若干変化がみられた。立地環境を反映し、ハチジョウススキ、ヤマアワ、ハチジョウナ、ツルナといった海浜や磯に生育する種も見られた。方形区内(7m×7m)で、8月に14種、10月に11種を確認し、合計は16種であった。10地域中最も種数が少なく、帰化率は25%であった。注目種はハチジョウナ(8月のみ)が該当した。

・草本層

8月：ハチジョウススキ(優占)、セイタカアワダチソウ、ヤマアワ、ヨモギ、シナガワハギ、オニウシノケグサ、アキニレなど

10月：ハチジョウススキ(優占)、セイタカアワダチソウ、ヤマアワ、ヘクソカズラ、ママコノシリヌグイ、オニウシノケグサなど

・注目種：ハチジョウナ（東京都レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類）

3) 確認種の傾向など

ハチジョウススキが密生し、潮の影響も受けることから定着できる種は限定されると考える。

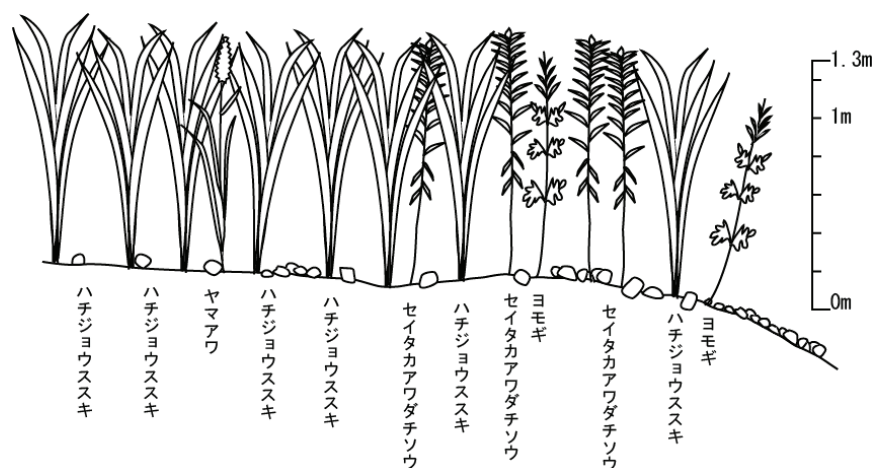


図 4.3.18 若洲橋周辺断面模式図（8月）

4) 現況からの提言

ハチジョウススキが密生し、安定した草地環境となっていた。土壌も薄いため、当分の間は草地環境のまま推移すると考える。

4.3.2 植物相

群落調査を実施した地点に出現した植物種を整理し、植物リストを作成した。その結果、表 4.3.1 に示すとおり全調査地点で合計 71 科 194 種となった（8 月：164 種，10 月：174 種）。植物リストは資料編に示す。

確認種の分類別確認種数を表 4.3.2 に示した。この中には 46 種の帰化植物が含まれており、調査地全体の帰化率は 24% であった。また、調査地での確認種には植栽・逸出の種も多く含まれており、これらも含めると人為的影響度は 40% と高い。

全体的に見て、過年度に比較して確認種数は減少しているが、今年度は春季調査を実施していないため、過年度との単純な比較はできない。

なお、コドラート外で確認したハンノキと潮見さざなみ公園のアサザは、コドラート内の出現種で比較するため、総種数から除外した。

表 4.3.1 出現植物区分表

分類			科数	種数	帰化植物種数	
シダ植物			2	2	0	
種子植物	裸子植物		5	5	0	
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	37	85	13
			合弁花類	13	42	21
	単子葉植物		14	60	12	
総計			71	194	46 帰化率:23.7%	

表 4.3.2 調査地点別出現植物区分表

調査地点番号	①	②-1	②-2 ②-3	②-4 ②-5	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧-1 ⑧-3	⑧-2	⑨	⑩			
シダ植物	2/2	0/0	1/1	1/1	0/0	0/0	1/1	1/1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0			
種子植物	裸子植物	1/1	1/1	0/0	0/0	0/0	3/3	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0			
	被子植物	双子葉	離弁花類	25/39	14/16	9/12	2/2	7/10	10/15	13/28	8/10	8/15	4/6	2/2	13/19	5/6
			合弁花類	9/17	6/10	4/8	1/1	4/9	5/5	5/9	4/6	4/12	4/12	1/3	3/6	2/5
	単子葉		6/11	4/7	6/10	5/6	4/10	4/4	7/16	4/6	4/15	2/10	1/2	4/16	2/5	
総科数	43	26	20	9	15	22	26	17	16	10	4	20	9			
総種数	70	35	31	10	29	27	54	23	42	28	7	44	16			
帰化種	種数	11	7	7	1	11	3	13	4	14	13	2	13	4		
	割合(%)	16%	20%	23%	10%	38%	11%	24%	17%	34%	46%	29%	30%	25%		
帰化・植/逸計	種数	26	11	8	1	12	11	19	4	15	13	2	15	5		
	割合(%)	37%	31%	26%	10%	41%	41%	35%	17%	37%	46%	29%	34%	31%		

コドラート内の出現種で比較するため、調査区外の2種は総種数から除外した。

【調査地点番号】

①釜屋掘公園 PES、②-1 亀高小学校・樹林、②-2,3 亀高小学校・水田、②-4,5 亀高小学校・池沼、③清澄庭園、④富岡八幡宮、⑤仙台堀川公園 PES、⑥荒川砂町水辺「砂村」PES、⑦荒川砂町水辺 PES、⑧-1,3 新砂下水道用地・乾生草地、⑧-2 新砂下水道用地・湿生草地、⑨塩見さざなみ公園 PES、⑩若洲橋周辺

4.3.3 確認した注目種

今回の調査で確認した注目種 8 種を表 4.3.3 に示す。

なお、ハンノキと潮見さざなみ公園 PES のアサザは、方形区調査外で確認した種であるが、注目種のためここでは含めて記載した。

表 4.3.3 確認した注目種一覧

No.	科名	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	選定基準	
			釜屋堀公園 PES	亀高小学校 PES	清澄庭園	富岡八幡宮	仙台堀川公園 PES	荒川砂町水辺「砂村」 PES	荒川砂町水辺 PES	新砂下水道用地	塩見さざなみ公園 PES	若洲橋	①	②
1	カバノキ	ハンノキ								○				VU
2	ドクダミ	ハンゲショウ	●								●			CR
3	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	●											VU
4	ユキノシタ	タコノアシ									●		NT	NT
5	ミツガシワ	アサザ		●							○		NT	VU
6	キク	ハチジョウナ										●		VU
7	オモダカ	ヘラオモダカ		●										NT
8	カヤツリグサ	マツカサススキ									●			VU
8科			2	2	0	0	0	0	0	1	4	1	2	8

注目種選定基準凡例

① 環境省レッドリスト2019

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧
DD:情報不足 LP:地域個体群指定のある種

② 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドデータブック～2010年（2013年5月修正版）

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

※ ○の種は方形区調査を実施した地点周辺で確認した種のため、本表ではカウントしている。

4.3.4 群落組成表

今回調査した植生調査結果から、群落組成表を作成した。組成表の作成に当たっては、以下に区分して整理した。作成した組成表は、資料編に示す。

植生調査は夏季及び秋季の2回実施したが季節変化は殆どなかったため、組成表は植物の最盛期である夏季の調査結果を用いて整理した。また、調査対象地のほとんどが植栽種により創出された植生であり本来の組成解析には則さないため、群落名は優占種や土地利用区分により決定した。

《木本群落》

釜屋堀公園 PES、亀高小学校、清澄庭園、富岡八幡宮、仙台堀川公園 PES の5地区から5データが得られた。仙台堀川公園 PES のヤマグワ群落は、実生から生長した陽樹で形成されたと考えられるが、その他の4群落は全て植栽起源であった。

群落の構成種は、イチヨウ、ソメイヨシノ、トウカエデなどの植栽樹種（逸出含む）や、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ワルナスビなどの外来種が多かった。在来種におい

でもカタバミ、オオバコ、ヨモギのなど草地生の種が多く出現しており、里山の雑木林等とは種組成的に大きく異なっていた。

《草本群落》

仙台堀川公園 PES、荒川砂町水辺公園「砂村」PES、荒川砂町水辺公園 PES、新砂下水道用地、塩見さざなみ公園 PES、若洲橋周辺の 6 地区から 8 データが得られ、優占種からオギ群落、ハチジョウススキ群落、チガヤ群落、メドハギ群落、セイタカアワダチソウ群落の 5 群落に区分した。

河口部に面した新砂下水道用地と若洲橋周辺では、海浜・沿海地生の種であるヤマアワ、ツルナ、ハチジョウナが見られた。そのほか荒川砂町水辺公園 PES、新砂下水道用地、塩見さざなみ公園 PE では、アレチハナガサ、コセンダングサ、ムラサキツメクサなどの外来種が多く出現した。全調査区に出現した種はヨモギと外来種のセイタカアワダチソウであった。

《湿生草本群落》

釜屋堀公園 PES、亀高小学校、仙台堀川公園 PES、荒川砂町水辺公園「砂村」PES、荒川砂町水辺公園 PES、新砂下水道用地、塩見さざなみ公園 PES、の 7 地区から 11 データが得られ、優占種からアサザ群落、ヨシ・ヒメガマ群落、アゼナルコ群落、コゴメイ群落など 9 群落に区分した。

調査した水辺は全て人工的に作られた水域であり、優占種のほかはセリ、ウキクサ、コウガイゼキショウなどの湿生種の出現は少なくアメリカセンダングサ、アレチハナガサなどの外来種やスギナ、チガヤ、ヨモギなどの草地生の種もみられたが、いずれも共通性に乏しい。一方で、ハンゲショウ、タコノアシ、ヘラオモダカ、マツカサススキなど注目種が他の区分より多く出現した。

《水田・畦畔雑草群落》

亀高小学校の学校水田から、水田及び畦畔雑草群落の 2 データが得られた。稲作に依存して生育する「水田雑草」は、セリ、イヌビエ、コナギな、チョウジタデなどがわずかながらみられた。

なお、本水田は、学校内の緑地に 1 区画だけ掘り下げて作られたものであるため、畔には水田特有の種はほとんど見られず、オオバコ、クサイ、ヘビイチゴ、ヒナタイノコズチなどの路傍・空地雑草が多く生育していた。

4.4 鳥類現況調査

現地調査で確認した鳥類は12目28科53種(カワラバト含む)で、カモ類、サギ類、カモメ類、ミサゴやカワセミ等の水域性の種を多く確認した。草地性・樹林性として、ウグイス、ツグミ、コゲラ、シジュウカラが多かったほか、モズ、アカゲラなども確認した。

各地区で共通して多く見られた種は、カルガモ、キジバト、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラバト等、都市性の種が挙げられ、これらの結果は、江東区の土地利用や環境を反映したものとなっていた。

調査結果の一覧を表4.4.1に示し、各地点やルートにおける調査の状況を以下に述べる。

4.4.1 調査地別

(1) 都立亀戸中央公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、9目17科24種を確認した。注目種は、スズガモ、カイツブリ、オオバン、イソシギの4種であった。調査の状況を、下記に記述する。

なお、過年度と同様に、Aゾーンを公園西側の中央広場や時計塔のある地区、BゾーンはAゾーンの北に位置する人工池や流れのある地区、CゾーンはJR総武本線の東に位置する運動場広場の地区とした。

[9月調査] 2018.9.25 (am.06:02~06:55)

Aゾーン：時計塔上空でカワウの飛翔を確認した。

Bゾーン：中央広場では地上でムクドリやカワラバトが採餌していた。Bゾーン北側に位置する池に水は無く、水鳥類は確認できなかった。公園北側を流れる旧中川の川岸では採餌するカルガモやサギ類を確認した。

Cゾーン：北側の旧中川付近でムクドリやカワラバトの飛翔を確認した。

確認種：カワウ、カルガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ムクドリ、スズメ、カワラバトなど13種。

[11月調査] 2018.11.19 (am.6:40~7:44)

Aゾーン：時計塔周辺でカワラバトの飛翔を確認し、総武本線沿いの樹林では採餌するヒヨドリやシジュウカラを確認した。

Bゾーン：中央広場でカワラバトが群れで採餌し、外周の樹林でヒヨドリやシジュウカラの飛翔を確認した。旧中川の川岸ではアオサギやオオバンが採餌していた。

Cゾーン：Cゾーン北側で樹頂にとまるツグミや藪の中で地鳴きするウグイスを確認した。旧中川ではユリカモメの飛翔やヒドリガモの遊泳を確認した。

確認種：アオサギ、オオバン、ユリカモメ、ヒドリガモ、ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラバトなど19種

[1月調査] 2019. 1. 28 (am. 6 : 54~7 : 56)

Aゾーン：総武本線沿いの樹林でハシブトガラスやヒヨドリの飛翔を確認した。

Bゾーン：中央広場の地上でカワラバトの群れやムクドリが採餌し、外周の樹林ではヒヨドリやシジュウカラ、コゲラが採餌していた。旧中川ではユリカモメが飛翔し、オオバンやヒドリガモが遊泳していた。

Cゾーン：Cゾーンの北側でヒヨドリやムクドリの飛翔を確認した。旧中川では休息するアオサギやユリカモメ、遊泳するオナガガモやヒドリガモを確認した。

確認種：アオサギ、オオバン、ユリカモメ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラバトなど19種

(2) 都立猿江恩賜公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、8目18科24種を確認した。注目種は、オオタカ、カワセミの2種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、日本庭園のある南側をAゾーン、時計塔や桜広場・管理事務所のある北側をBゾーンとした。

[9月調査] 2018. 9. 25 (am. 07 : 44~8 : 54)

Aゾーン：野球場の南側でムクドリやヒヨドリがサンゴジュの実を採餌していた。南西に位置する上流側の池は、清掃作業により水鳥は確認できなかったが下流側の池で休息するカルガモを確認した。

Bゾーン：公園西側の樹林でオナガやシジュウカラの飛翔やとまりを確認した。サービスセンター付近の低木ではスズメの群れが採餌していた。

確認種：カルガモ、ハクセキレイ、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、シジュウカラ、オナガ、ハシブトガラス、カワラバトなど14種。

[11月調査] 2018. 11. 19 (am. 8 : 14 ~9 : 22)

Aゾーン：公園の南西に位置する池でオナガガモやカルガモ、キンクロハジロが遊泳し、池周辺の低木でウグイスの地鳴きを確認した。

Bゾーン：冒険広場周辺の樹林ではシジュウカラやコゲラ、メジロ、ムクドリなどが採餌や休息し、林床でカワラバトが採餌していた。また、ミニ木蔵の池ではキンクロハジロの群れが遊泳、休息していた。

確認種：キンクロハジロ、オナガガモ、カルガモ、アオサギ、ハクセキレイ、ツグミ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ムクドリなど18種。

[1月調査] 2019. 1. 28 (am. 8 : 25~9 : 40)

A ゾーン：公園の南西に位置する池でオナガガモやカルガモ、ヒドリガモの遊泳を確認した。野球場の鉄塔ではオオタカの幼鳥がとまり、周辺でハシブトガラスやハシボソガラスが鳴きながら威嚇していた。

B ゾーン：外周の樹林でヒヨドリやスズメ、カワラバトの飛翔を確認した。ミニ木蔵の池では休息するアオサギを確認した。

確認種：オオタカ、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガモ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ジョウビタキ、カワセミなど 22 種。

(3) 都立清澄庭園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、10 目 20 科 28 種を確認した。注目種は、ヒメアマツバメ、ツミ、カワセミ、モズの 4 種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、庭園区域を清澄庭園として、開放公園区域を清澄公園と表記することとし、どちらも園内の園路を利用して実施した。

[9月調査] 2018. 9. 25 (am. 09 : 20~10 : 20)

清澄庭園内の池ではカルガモが多く、中央の島ではアオサギが休息していた。周辺樹林ではコゲラ、オナガ、カワラヒワ等を確認した。

確認種：カルガモ、アオサギ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワなど 11 種。

[11月調査] 2018. 11. 19 (am. 09 : 20~10 : 35)

清澄公園では、ヒヨドリ、ムクドリ、カワラバトを多く確認した。庭園内の池では、数多くのホシハジロ、キンクロハジロ等のカモ類を確認し、アオサギ、カワセミ等も見られた。また、上空ではヒメアマツバメの飛翔を確認した。

確認種：オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ヒメアマツバメ、カワセミ、メジロ、ヒヨドリなど 19 種。

[1月調査] 2019. 1. 28 (am. 09 : 50~10 : 50)

清澄公園では、キジバト、ヒヨドリ、カワラバトを多く確認した。公園内では餌を与えている人も見られ、ハトが集まっていた。庭園内では、池にヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ等のカモ類を確認した。池の周辺では、アオサギ、カワセミが見られ、周辺樹林ではツミを確認し、ハシブトガラスが集まっていた。また、上空ではユリカモメとセグロカモメの飛翔を確認した。

確認種：ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ユリカモメ、ツミ、カワセミ、シジュウカラなど 20 種。

(4) 富岡八幡宮・深川公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、2目10科12種を確認した。注目種の確認はなかった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、富岡八幡宮と深川公園の外周周辺と園内からの観察を行った。

[9月調査] 2018.9.25 (am.08:05~08:50)

富岡八幡宮では、キジバト、オナガ、シジュウカラ等を確認し、数多くのカワラバトが見られた。深川公園では、地上でスズメが採餌していた。

確認種：キジバト、オナガ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリなど10種。

[11月調査] 2018.11.19 (am.08:30~09:00)

富岡八幡宮では、キジバト、シジュウカラ等を樹上にて確認した。また、周辺において数多くのカワラバトが見られた。深川公園では、スズメの群れとウグイスの地鳴きを確認した。

確認種：キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、スズメ、カワラバトなど9種。

[1月調査] 2019.1.28 (am.09:00~09:30)

富岡八幡宮では、キジバト、ヒヨドリ等を樹上にて確認した。深川公園では、スズメの群れとメジロを確認した。

確認種：キジバト、ハシブトガラス、ヒヨドリ、スズメ、カワラバトなど6種。

(5) 都立木場公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、8目17科20種を確認した。注目種は、ダイサギ、オオバン、ツミの3種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、中央部を東西に葛西橋通りと仙台堀川が通っており、これにより北ゾーンと南ゾーンに分けて実施した。

[9月調査] 2018.9.25 (am.11:00~12:00)

北ゾーン：広場ではハシブトガラス、カワラバト、スズメが目立ち、周辺樹林では、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ等を確認した。

南ゾーン：ふれあい広場ではカワラバトの群れが多く、外周の樹林ではヒヨドリの姿や鳴き声が目立った。バーベキュー広場の樹林ではシジュウカラとメジロ等を確認した。

確認種：キジバト、オナガ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、スズメなど11種。

[11月調査] 2018.11.19 (am. 11:04 ~11:50)

北ゾーン：広場ではハシブトガラス、カワラバト、スズメが目立ち、ヒヨドリの移動飛翔も多かった。周辺樹林では、シジュウカラ、メジロ等を確認した。

南ゾーン：ふれあい広場の上空ではカワラバトの群れが飛翔し、外周の樹林ではヒヨドリの姿や鳴き声が目立った。バーベキュー広場の樹林ではシジュウカラとコゲラの採餌を確認し、イベント池ではオナガガモとカルガモの遊泳を確認した。

確認種：カルガモ、オナガガモ、ハクセキレイ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ヒヨドリ、カワラバトなど11種。

[1月調査] 2019.1.28 (am. 11:05~11:48)

北ゾーン：広場ではハシブトガラス、カワラバトが目立ち、ヒヨドリとムクドリの移動飛翔も多かった。周辺樹林では、キジバト、オナガ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ等の採餌を確認した。

南ゾーン：ふれあい広場の地上でカワラバトの群れが採餌し、外周の樹林ではヒヨドリやムクドリ、ツグミの飛翔、とまりを確認した。イベント池では休息するオナガガモを確認した。

確認種：カルガモ、オナガガモ、ハクセキレイ、シジュウカラ、オナガ、メジロ、ヒヨドリ、スズメ、カワラヒワなど19種。

(6) 横十間川親水公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、8目16科23種を確認した。注目種は、スズガモ、オオバン、カワセミの3種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、親水公園部分の全域を歩いて実施した。

[9月調査] 2018.9.25 (am. 09:34~10:40)

公園の北側から野鳥の島までの陸域ではカワラバトやムクドリ、オナガなどの姿や鳴き声を確認し、水域ではカワセミの飛翔を確認した。南側の野鳥の島では、木の上でカワウやゴイサギの幼鳥が休息していた。

確認種：カワウ、ゴイサギ、カワセミ、カルガモ、ムクドリ、オナガ、スズメ、カワラバトなど12種。

[11月調査] 2018.11.19 (am. 9:40~10:45)

陸域の樹林ではヒヨドリやシジュウカラ、スズメ等を確認し、野鳥の島周辺の水域では遊泳するオオバンやキンクロハジロ、休息するカワウやアオサギを確認した。豊砂橋より南側の池では、樹の枝の上で休息するゴイサギの成鳥と幼鳥を確認した。

確認種：カワウ、ゴイサギ、キンクロハジロ、カルガモ、オオバン、オナガガモ、アオサギなど18種。

[1月調査] 2019.1.28 (am.10:02~10:52)

公園の北側から野鳥の島までの陸域ではカワラバトやスズメ等の飛翔を確認し、水域では休息するセグロカモメや遊泳するオオバン、潜水するスズガモ等を確認した。

野鳥の島付近ではキンクロハジロが休息し、豊砂橋より南側の池では休息するカルガモや木の枝にとまるゴイサギを確認した。

確認種：スズガモ、キンクロハジロ、カルガモ、オオバン、セグロカモメ、ゴイサギ、アオサギ、メジロ、キジバト、カワラバトなど15種。

(7) 仙台堀川公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、7目14科23種を確認した。注目種は、コサギ、オオバンの2種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、親水公園部分の全域を歩いて実施した。

[9月調査] 2018.9.25 (am.06:10~07:30)

公園区域全域にて、カワラバトを多く確認した。公園の陸域ではキジバト、オナガ、ヒヨドリ、スズメなどの鳴き声や採餌を確認し、水域ではカルガモを確認した。野鳥の島では、カワウ、ゴイサギ、アオサギが休息していた。

確認種：カルガモ、キジバト、アオサギ、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、スズメなど16種。

[11月調査] 2018.11.19 (am.06:15~08:00)

公園区域全域にて、カワラバトを多く確認した。公園の陸域ではキジバト、オナガ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ムクドリなどの鳴き声や採餌を確認し確認した。野鳥の島では、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、コサギが休息していた。また、西側の水路沿いには、カルガモ、マガモ、キンクロハジロ等を確認した。

確認種：マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、コサギ、オオバン、オナガ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメなど22種。

[1月調査] 2019.1.28 (am.07:00~08:35)

公園区域全域にて、カワラバトを多く確認した。公園の陸域ではキジバト、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメなどの鳴き声や採餌を確認し確認した。野鳥の島では、カワウ、アオサギが休息し、オオバンが採餌していた。また、西側の水路沿いには、オナガガモ、キンクロハジロ等を確認した。

確認種：カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、オオバン、オナガ、ヒヨドリ、メジロ、スズメなど15種。

(8) 隅田川河川敷・水面 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、6目12科23種を確認した。注目種は、スズガモ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギの5種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、越中島公園と中の島公園の園路を利用して実施した。

[9月調査] 2018.9.26日 (am.06:10~07:10)

水面では、カルガモ、ウミネコ等が遊泳していた。その後、ウミネコは飛翔し、カワウも見られた。水域周辺では、アオサギ、コサギ、イソシギ等を確認した。陸域では、オナガ、シジュウカラ、ムクドリ、スズメ等を確認した。

確認種：カルガモ、カワウ、コサギ、イソシギ、ウミネコ、オナガ、スズメ、ムクドリなど15種。

[11月調査] 2018.11.20 (am.10:55~11:50)

水面では、オナガガモやキンクロハジロ、ホシハジロなどのカモ類やユリカモメ、セグロカモメなどのカモメ類が遊泳し、上空ではカワウの飛翔を確認した。陸域ではハクセキレイやスズメ、カワラバトの採餌を確認した。

確認種：ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、キンクロハジロ、ホシハジロ、スズガモ、オナガガモ、オオバン、カワウ、ハクセキレイなど14種。

[1月調査] 2019.1.29 (am.11:15~11:49)

水面では、オオバンが遊泳し、上空ではカワウやユリカモメ、オオセグロカモメの飛翔を確認した。陸域ではカワラバトやスズメ、ハクセキレイの採餌を確認した。

確認種：カワウ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、イソシギ、ハクセキレイなど11種。

(9) 荒川河川敷・水面 (定点・センサス)

今回の調査では、8目22科34種を確認した。注目種は、スズガモ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、ミサゴ、トビ、モズ、ヒバリ、イソヒヨドリの10種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、Aゾーンを葛西橋から北の区間、Bゾーンは葛西橋と東京メトロ東西線の荒川鉄橋までの区間、Cゾーンは東京メトロ東西線の荒川鉄橋から南の区間とした。

[9月調査] 2018. 9. 26 (am. 07 : 05~08 : 50)

- A ゾーン：荒川上空で飛翔するオオセグロカモメやミサゴを確認した。南側の漁船の係留地では、杭の上でウミネコやカワウが休息していた。
- B ゾーン：陸域の緑地帯ではムクドリの子が採餌していた。
- C ゾーン：南側の干潟ではカルガモやウミネコ、アオサギが休息し、上空でトビの飛翔を確認した。

確認種：カルガモ、ウミネコ、ミサゴ、オオセグロカモメ、アオサギ、カワウ、イソシギ、ダイサギなど 20 種。

[11月調査] 2018. 11. 20 (am. 6 : 52~8 : 48)

- A ゾーン：北側の旧中川水門付近ではキンクロハジロやスズガモ、オオバンが遊泳し岸際ではコサギが採餌していた。南側の漁船の係留地では、杭の上で休息するアオサギやカワウを確認した。
- B ゾーン：水際で採餌するイソシギを確認した。
- C ゾーン：水面上空でカワウやウミネコ、ユリカモメが上流へ飛翔していた。陸域の緑地ではトビが旋回し、ヒバリの飛翔やモズの採餌などを確認した。

確認種：キンクロハジロ、スズガモ、マガモ、アオサギ、コサギ、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコなど 24 種。

[1月調査] 2019. 1. 29 (am. 7 : 15~8 : 48)

- A ゾーン：北側の旧中川水門付近では休息するスズガモの群れを確認した。陸域では草地でタヒバリの飛翔と低木でメジロの採餌を確認した。
- B ゾーン：葛西橋付近の浅瀬で休息するスズガモの群れを確認した。
- C ゾーン：水面上空ではユリカモメが上流へ飛翔し、陸域ではカワウの飛翔を確認した。

確認種：スズガモ、カルガモ、オオバン、カワウ、アオサギ、セグロカモメ、ユリカモメなど 21 種。

(10) 都立夢の島公園 (ロードサイド・センサス)

今回の調査では、9 目 20 科 32 種を確認した。注目種は、スズガモ、コサギ、オオバン、イソシギ、トビ、ノスリ、モズの 7 種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、中央を南北に走る明治通りにより多目的コロシウムや熱帯植物園などがある東ゾーン、多くの運動施設が集まっている西ゾーンとし、調査を実施した。

[9月調査] 2018.9.26 (am.07:50~09:15)

西ゾーン：運動場内では、ムクドリやスズメが採餌していた。上空にて、カワウ、ウミネコ等を確認した。

東ゾーン：園内整備等の工事が行われていた。園内樹林では、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ等の姿、鳴き声を確認した。公園から見える範囲の水域では、アオサギ、コサギ、イソシギ等を確認した。

確認種：カワウ、コサギ、イソシギ、トビ、モズ、ムクドリ、スズメなど15種。

[11月調査] 2018.11.20 (am.06:20~08:00)

西ゾーン：園内整備等の工事が行われていた。運動場内では、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメの姿、鳴き声を確認した。園内樹林では、キジバト、コゲラ、シジュウカラ等を確認した。

東ゾーン：園内整備等の工事が行われていた。園内樹林では、キジバト、ヒヨドリ、ジョウビタキ等を確認した。上空にて、カワウ、ユリカモメ、ウミネコ等を確認し、公園から見える範囲の水域では、カモ類、オオバン等を確認した。

確認種：カルガモ、ホシハジロ、カワウ、オオバン、ユリカモメ、シジュウカラ、ジョウビタキなど22種。

[1月調査] 2019.1.29 (am.10:25~11:00)

西ゾーン：園内整備等の工事が行われていた。運動場内では、ムクドリ、スズメの姿、鳴き声を確認した。園内樹林では、キジバト、シジュウカラ、メジロ等を確認した。

東ゾーン：園内整備等の工事が行われていた。園内樹林では、キジバト、オナガ、メジロ、カワラヒワ等を確認した。上空にて、カワウ、ノスリ等を確認し、公園から見える範囲の水域では、カモ類、ウミネコ等を確認した。

確認種：オナガガモ、キンクロハジロ、カワウ、ノスリ、オナガ、シジュウカラ、ムクドリ、スズメなど19種。

(11) 新木場二丁目地先水面 (定点・センサス)

今回の調査では、9目13科22種を確認した。注目種は、スズガモ、カイツブリ、ダイサギ、オオバン、トビ、イソヒヨドリの6種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、北側貯木場（第一貯木場）をAゾーン、南側貯木場（第二貯木場）をBゾーンとした。

[9月調査] 2018.9.26 (am. 11:50~12:30)

A ゾーン：北側の貯木場にて、カルガモ、カワウ、アオサギ等を確認した。周囲の水面上空を、トビ、ヒヨドリ等が飛翔していた。

B ゾーン：南側の貯木場にて、カワウ、アオサギ、ウミネコ等を確認した。周囲にて、スズメ、カワラバト等を確認した。

確認種：カワウ、アオサギ、ウミネコ、トビ、ヒヨドリ、スズメなど13種。

[11月調査] 2018.11.20 (am. 08:10~08:50)

A ゾーン：北側の貯木場にて、カルガモ、ホシハジロ、スズガモ等を確認した。周囲には、ヒヨドリ、スズメ等が飛翔していた。

B ゾーン：南側の貯木場にて、カモ類、オオバン、ユリカモメを確認した。周囲にて、スズメ、ハクセキレイ等を確認した。

確認種：カルガモ、ホシハジロ、スズガモ、オオバン、ユリカモメ、ヒヨドリ、スズメなど13種。

[1月調査] 2019.1.29 (am. 10:25~11:00)

A ゾーン：北側の貯木場にて、ホシハジロ、スズガモ、セグロカモメ等を確認した。周囲には、ヒヨドリ、スズメ等が飛翔していた。

B ゾーン：南側の貯木場にて、カモ類、カイツブリが採餌し、ユリカモメ、セグロカモメが休息していた。周囲にて、ヒヨドリ等を確認した。

確認種：ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメなど9種。

(12) 若洲調整池 (定点・センサス)

今回の調査では、8目17科29種を確認した。注目種は、スズガモ、カイツブリ、オオバン、イソシギの4種であった。調査の状況を、下記に記述する。なお、過年度と同様に、全体が見渡せる調整池の南西側の岸から実施した。

[9月調査] 2018.9.26 (am. 10:45~11:20)

調整池の水際には、イソシギやハクセキレイの採餌を確認し、池内ではカイツブリの遊泳を確認した。池の周囲を囲む堤体周辺ではセッカの鳴き声やツバメの飛翔を確認した。

確認種：イソシギ、ハクセキレイ、セッカ、ツバメ、ウミネコ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラバトなど13種。

[11月調査] 2018.11.20 (am. 09:40~10:30)

調整池では、ホシハジロやキンクロハジロ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ等のカモ類が遊泳、休息していた。池の周囲ではヒヨドリやスズメを確認した。

確認種：ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、オオバン、ヒヨドリ、スズメなど16種。

[1月調査] 2019.1.29 (am.09:45~10:15)

調整池では、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ等のカモ類が遊泳、休息していた。池の周囲では、ヒヨドリ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ等を確認した。

確認種：マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、アカハラ、ツグミなど17種。

表 4.4.1 鳥類調査結果一覧

No.	目名	科名	和名	学名	①国立亀戸中央公園		②国立鏡江恩賜公園		③都立清澄庭園		④高田八幡宮・深川公園		⑤船立木場公園 PES		⑥横十間川親水公園		⑦山台堀川公園 PES		⑧岡田川河川敷・水面		⑨荒川河川敷・水面		⑩船立夢の島公園		⑪新木場二丁目地先水面		⑫若洲調整池		遷定基準
					9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	9月	11月	
1	鶇	ヒメドリ	鶇	<i>Anas platyrhynchos</i>	21	12			2	17																		①	
2		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
3		鴨	鴨	<i>Anas zonorhynchos</i>	3	3	8	28	17	15	4	5																	
4		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
5		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
6		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
7		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
8		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
9		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
10		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
11		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
12		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
13		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
14		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
15		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
16		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
17		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
18		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
19		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
20		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
21		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
22		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
23		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
24		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
25		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
26		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
27		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
28		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
29		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
30		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
31		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
32		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
33		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
34		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
35		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
36		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
37		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
38		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
39		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
40		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
41		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
42		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
43		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
44		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
45		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
46		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
47		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
48		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
49		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
50		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
51		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
52		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									
53		鴨	鴨	<i>Anas platyrhynchos</i>																									

凡例
 ・種名および分類等は「鳥類目録第7版」（日本鳥学会 2012年9月15日）に準拠した。
 注目種遷定基準凡例
 ①環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生動物の種のリスト）（2018年5月22日）
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧II類 VU: 絶滅危惧III類 NT: 準絶滅危惧
 ②東京都の保護上重要な野生動物種—東京都版のレッドデータブック—（鳥類）（2019年3月）
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧II類 VU: 絶滅危惧III類 NT: 準絶滅危惧
 *2: 生息数は多いが、東京湾内では市川・船橋沖と葛西沖に集中している。特定の場所への集中は、病気の発生など生態保全上のリスクがあるため、発生場所の拡散状況や病気の発生など生態保全上のリスクがあるため、

4.4.2 確認した注目種

今回の調査では注目種を16種確認した。各種の確認状況を以下及び表4.4.2に示す。

- ・スズガモ（都R：留意種）：調査地域⑥⑧⑨⑩⑪⑫にて確認した。
- ・カイツブリ（都R：NT）：調査地域①⑪⑫にて確認した。
- ・ダイサギ（都R：VU）：調査地域①⑤⑧⑨⑪にて確認した。
- ・コサギ（都R：VU）：調査地域①⑦⑧⑨⑩にて確認した。
- ・オオバン（都R：VU）：調査地域①⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫にて確認した。
- ・ヒメアマツバメ（都R：VU）：調査地域③にて確認した。
- ・イソシギ（都R：VU）：調査地域⑧⑨⑩⑫にて確認した。
- ・ミサゴ（国R：NT、都R：EN）：調査地域⑨にて確認した。
- ・トビ（都R：NT）：調査地域⑨⑩⑪にて確認した。
- ・ツミ（都R：CR）：調査地域③⑤にて確認した。
- ・オオタカ（国R：NT、都R：CR）：調査地域②にて確認した。
- ・ノスリ（都R：EN）：調査地域⑩にて確認した。
- ・カワセミ（都R：VU）：調査地域②③⑥にて確認した。
- ・モズ（都R：VU）：調査地域③⑨⑩にて確認した。
- ・ヒバリ（都R：VU）：調査地域⑨にて確認した。
- ・イソヒヨドリ（都R：DD）：調査地域⑨⑪にて確認した。

表 4.4.2 確認した注目種一覧

No.	目名	科名	和名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	選定基準	
				都立亀戸中央公園	都立猿江恩賜公園	都立清澄庭園	富岡八幡宮・深川公園	都立木場公園 P E S	横十間川親水公園	仙台堀川公園 P E S	隅田川河川敷・水面	荒川河川敷・水面	都立夢の島公園	新木場二丁目地先水面	若洲調整池	①	②
1	カモ	カモ	スズガモ						○		○	○	○	○	○		*2
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○										○	○		NT
3	ペリカン	サギ	ダイサギ	○				○			○	○		○			VU
4			コサギ	○						○	○	○	○				VU
5	ツル	クイナ	オオバン	○				○	○	○	○	○	○	○	○		VU
6	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ			○											VU
7	チドリ	シギ	イソシギ								○	○			○		VU
8	タカ	ミサゴ	ミサゴ									○					NT EN
9		タカ	トビ									○	○	○			NT
10			ツミ			○		○									CR
11			オオタカ		○												NT CR
12			ノスリ										○				EN
13	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○			○								VU
14	スズメ	モズ	モズ			○						○	○				VU
15		ヒバリ	ヒバリ									○					VU
16		ヒタキ	イソヒヨドリ									○		○			DD
	9	12	16	4	2	4	0	3	3	2	5	10	7	6	4	2	16

・種名および分類等は「鳥類目録第7版」（日本鳥学会 2012年9月15日）に準拠した。

注目種選定基準凡例

①環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）（2018年5月22日）

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足 LP:地域個体群指定のある種

②東京都の保護上重要な野生生物種—東京都版のレッドデータブック—（鳥類）（2013年3月）

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

*2:生息数は多いが、東京湾内では市川・船橋沖と葛西沖に集中している。特定の場所への集中は、病気の発生など生息保全上のリスクがあるので、生息場所の拡散状況や病気・事故の発生がないか留意する必要があるため。

4.4.1 前回調査結果(2005年9月～2006年5月)との比較

前回調査で確認された鳥類は12目27科58種(カワラバト、アヒル、カモ雑種、シギ sp. 含む)で、今年度調査で確認した鳥類は12目28科53種(カワラバト含む)であった。なお、前回調査及び今回調査で確認された種は、併せて13目31科71種となった。

今年度は5月調査を実施していないため実施回数は1回少なく、夏鳥が含まれておらず、種数は前回調査より少ない結果となった。

前回調査で確認されておらず、今回新たに確認した種は、ヒメアマツバメ、ミサゴ、ミサゴ、トビ、ツミ、オオタカ、ノスリ、ヒバリ、アカハラ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、タヒバリ、ホオジロ、アオジの14種であった。一方、前回調査で確認され、今回の調査で記録されなかった種は、カンムリカイツブリ、ササゴイ、チュウサギ、シギ・チドリ類、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、チョウゲンボウ、オオヨシキリ、シロハラの11種であった(カワラバト、アヒル、カモ雑種、シギ sp. は対象としない)。

各調査地点の確認種数は概ね前回調査と同程度であったが、一部の調査地区で変化が見られており、⑨荒川河川敷・水面(前回15種:今回34種)、⑩都立夢の島公園(前回21種:今回31種)、⑫若洲調整池(前回18種:今回29種)の3地点では今年度種数が顕著に増えていた。要因としては、カモ類、サギ類等の水域性の鳥類が増加している事が挙げられる。

一方、⑪新木場二丁目地先水面(前回31種、今回22種)では、前回調査時の方が多く確認されている。要因としては、前回調査は5月期にシギ・チドリ類が多く確認されており、今回は5月の調査がなかったため、種数が減少したものと考えられる。

以下に、各調査地点別に前回調査結果との比較結果を述べ、表 4.4.3 に出現種の比較表を示す。

(1) 都立亀戸中央公園(ロードサイド・センサス)

都立亀戸中央公園では、前回調査で記載されていないカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、セグロカモメ等の水域性の鳥類や藪性のウグイスの出現を確認したが、前回調査で記載されているコガモやコチドリ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は21種であり、今回の調査では24種を確認した。

(2) 都立猿江恩賜公園(ロードサイド・センサス)

都立猿江恩賜公園では、前回調査で記載されていないオオタカ等の猛禽類やヒドリガモやカワウ等の水域性の鳥類、樹林性のコゲラの他、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス等の草地性や藪性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されているチュウサギ、マガモ、スズガモ、ユリカモメ、ツバメ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は21種であり、今回の調査では24種を確認した。

(3) 都立清澄庭園（ロードサイド・センサス）

都立清澄庭園では、前回調査で記載されていないヒメアマツバメやツミ、またカワセミ等の水域性の鳥類、樹林性のコゲラを確認したが、前回調査で記載されているマガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は30種であり、今回の調査では28種を確認した。

(4) 富岡八幡宮・深川公園（ロードサイド・センサス）

富岡八幡宮・深川公園では、前回調査で記載されていないウグイス・メジロ等の藪性及び樹林性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されているカウウは確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は11種であり、今回の調査では12種を確認した。

(5) 都立木場公園（ロードサイド・センサス）

都立木場公園では、前回調査で記載されていないツミ等の猛禽類、ダイサギやオオバン等の水域性の鳥類、樹林性のコゲラ、メジロの他、ツグミ、ウグイス等の草地性や藪性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されているキンクロハジロ、スズガモ、ユリカモメ、セグロカモメ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は19種であり、今回の調査では20種の出現を確認した。

(6) 横十間川親水公園（ロードサイド・センサス）

横十間川親水公園では、前回調査で記載されていないスズガモやアオサギ、セグロカモメ等の水域性の鳥類や樹林性のメジロの他、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス等の草地性や藪性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されているササゴイ、ホシハジロ、ユリカモメ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は19種であり、今回の調査では23種を確認した。

(7) 仙台堀川公園（ロードサイド・センサス）

仙台堀川公園では、前回調査で記載されていない水域性のマガモやオオバン、樹林性のコゲラ、メジロを確認したが、前回調査で記載されているスズガモ、ダイサギ、ユリカモメ等の水域性の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は22種であり、今回の調査では23種の出現を確認した。

(8) 隅田川河川敷・水面（ロードサイド・センサス）

隅田川河川敷・水面では、前回調査で記載されていないキンクロハジロ、スズガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イソシギ等の水域性の鳥類や樹林性のオナガの出現を確認したが、前回調査で記載されているカンムリカイツブリ、コガモ、コチドリ、シロチドリ、キョウジ

ヨシギ、ハマシギ、コアジサシ、ツバメ等の水域性の鳥類や樹林性のキジバトは確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は25種であり、今回の調査では23種を確認した。

(9) 荒川河川敷・水面（定点・センサス）

荒川河川敷・水面では、前回調査で記載されていないミサゴやトビ等の猛禽類、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、イソシギ、セグロカモメ、アオサギ、ダイサギ、イソヒヨドリ等の水域性の鳥類、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツグミ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ等の草原性の鳥類の他、シジュウカラやメジロ、キジバト、ウグイス等、樹林性や藪性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されている草原性のセッカや樹林性のオナガ等の鳥類は確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は15種であり、今回の調査では34種を確認した。

(10) 都立夢の島公園（ロードサイド・センサス）

都立夢の島公園では、前回調査で記載されていないヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、コサギ、オオバン等の水域性の鳥類、トビやノスリ等の猛禽類の他、ウグイス、ジョウビタキ等の藪性、草地性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されている水域性のダイサギや猛禽類のチュウヒは確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は21種であり、今回の調査では32種を確認した。

(11) 新木場二丁目地先水面（定点・センサス）

新木場二丁目地先水面では、前回調査で記載されていないスズガモやカイツブリ等の水域性の鳥類、猛禽類のトビの他、オオセグロカモメやイソヒヨドリを確認したが、前回調査で記載されている水域性のキンクロハジロ、コサギやシギ・チドリ類、猛禽類のハイイロチュウヒ、チュウヒは確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は31種であり、今回の調査では22種を確認した。

(12) 若洲調整池（定点・センサス）

若洲調整池では、前回調査で記載されていないヒドリガモ、コガモ、スズガモ、カイツブリ、カワウ、イソシギ、ウミネコ等の水域性の鳥類、キジバト、コゲラ、オナガ、ヒヨドリ、アカハラ等の樹林性の鳥類の他、ハシボソガラス、セッカ、ムクドリ、ツグミ、アオジ等の草原性の鳥類の出現を確認したが、前回調査で記載されている水域性のアオサギや猛禽類のチュウヒ、樹林性のシジュウカラ、草地性のモズやオオヨシキリは確認できなかった。前回調査データの鳥類出現種数は18種であり、今回の調査では29種を確認した。

4.5 昆虫類現況調査

4.5.1 調査結果の概要

今回の調査で確認した昆虫は14目111科247種(不明種含む)であった。

昆虫類の現況を整理すると以下のとおりである。

- ・本調査において PES や、都市公園内で多くの昆虫類を確認できたことで、これらの緑地帯は都市部における昆虫類の保全に大きな効果を挙げていることが明らかとなった。
- ・出現した昆虫類はコウチュウ目、カメムシ目、ハチ目の順で種類が多かった。コウチュウ目は樹林に由来するもの、草地に由来する種が両方出現した。カメムシ目は草地に由来する種が多くを占めた。ハチ目はアリ類が多かったが、花粉媒介者となるコハナバチ科のハチ類も数多く出現していた。また、開けた場所を好むトンボ類やチョウ類の個体数も多く確認されたことから、調査区内の樹林環境及び草地は前回調査以降も保たれた状態であるが、草地が若干増加傾向であると推測された。
- ・地表徘徊性のオサムシ類が荒川砂町水辺公園「砂村」PES でしか確認されなかったこと、都市化に強い分解者であるオオヒラタシデムシが確認されなかった事は、地表徘徊性の昆虫の生息できるスペースが少ないことを示唆している可能性が考えられる。

確認した目科別種数を表 4.5.1 に、目別、調査地点別の確認状況を次頁以降に示す。

表 4.5.1 平成 30 年度目科別出現種数

目名	科数	種数	備考	H18報告書種数
カゲロウ	1	1		—
トンボ	3	9	東京都RDB VUランク種含む	3科11種
カワゲラ	-	-		1科1種
ゴキブリ	1	1		1科1種
カマキリ	1	3		1科3種
シロアリ	1	1		—
バッタ	8	24	東京都RDB DD, CR, VUランク種含む	9科26種
ハサミムシ	1	1		1科3種
アザミウマ	1	1		—
カメムシ	24	47	東京都RDB NTランク種含む	24科57種
アミメカゲロウ	2	2		3科4種
コウチュウ	15	64		16科78種
ハチ	17	46		16科74種
ハエ	23	36		19科67種
チョウ	14	29		16科59種
14目	111科	247種		11目109科383種

凡例

- ・分類及び種名は、「日本産野生生物目録-無脊椎動物編Ⅱ-(1995年、環境庁)」に準拠した。
 - ・環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)(2019年1月)
 - ・東京都の保護上重要な野生生物種(東京都版のレッドデータブック)(2013年3月)
- VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

(1) 目科別調査結果

1) カゲロウ目

今回の調査では富岡八幡宮で1種のみ確認した。種及び科の特定には至らなかった。

敷地内には豊富な水量がある池などの水域が存在し、そこから発生していると推測される。

2) トンボ目

今回の調査では3科9種を確認した。注目種として富岡八幡宮でハグロトンボ(東京都RDB VU【絶滅危惧Ⅱ類】)を確認した。本種は富岡八幡宮敷地内の池等から発生していると推測される。

その他のトンボ目で確認箇所が多かった種は、シオカラトンボ(全域)、アジアイトトンボ(9地点)、アキアカネ(5地点)であった。いずれも止水域の広い範囲で生息する種であり、区内で豊富な水環境が残されているといえる。しかし、アキアカネは秋季に冷涼な山地などから平地に拡散する性質から、他地域からの流入個体が多くを占めると考えられる。

3) ゴキブリ目

荒川砂町水辺公園 PES と、潮見さざなみ公園 PES でモリチャバネゴキブリを確認した。樹木の落ち葉などを分解する役割を持つ昆虫で、確認地点での個体数も多かったため、調査地点の一部に良好な樹林環境が存在しているといえる。

4) カマキリ目

荒川砂町水辺公園「砂村」PES、新砂下水道用地、若洲橋周辺の草地で1科3種を確認した。バッタ目やチョウ目などの昆虫を捕食することから、これらが生息する草地環境が維持されているといえる。

5) シロアリ目

若洲橋周辺の朽木でヤマトシロアリを確認した。森林の倒木などを分解する役割を持つ昆虫だが、1箇所のみ確認であったため出現要因等は不明である。

6) バッタ目

8科24種を確認した。注目種はマツムシ(東京都RDB CR【絶滅危惧Ⅰ類】)が荒川砂町水辺公園 PES で、ヒゲシロスズ(東京都RDB DD【情報不足】)が荒川砂町水辺公園「砂村」PES と、荒川砂町水辺公園 PES で、ショウリョウバッタモドキ(東京都RDB VU)が仙台堀川公園 PES でそれぞれ出現した。オンブバッタ、エンマコオロギ、カネタタキが多くの地点で出現した(8地点)。いずれの種も草地環境を好む種であり、バッタ目が生息する環境が維持されているといえる。特に注目種が出現した地点は良好な草地環境が維持されていると推察される。

7) ハサミムシ目

ハマベハサミムシを5箇所を確認した。特に若洲橋周辺で個体数が多かった。ハサミムシ目は樹林から裸地に至るまで多くの環境に生息し、雑食であるため、海岸部の腐食質をエサに繁殖していると推察される。

8) アザミウマ目

クダアザミウマ科の一種を4箇所を確認した。アザミウマの仲間は微小昆虫で植物を害する農業害虫が含まれる。確認地点はいずれも高木を含む箇所であったが、出現要因は不明である。

9) カメムシ目

24科47種を確認した。注目種として、富岡八幡宮においてヒグラシ(東京都RDB NT【準絶滅危惧】)を確認した。その他アブラゼミ(7地点)や、ミンミンゼミ(5地点)も確認地点では数が多く、調査地点における樹林環境が維持されていることを示している。一方植物食のカメムシ科の出現種数が少なく、植物相が単調であると考察される。

10) アミメカゲロウ目

アミメカゲロウと、種名不明の種を確認した。アミメカゲロウは富岡八幡宮で確認した。海岸近辺の温暖な林によく見られる種で、出現地の樹林環境が維持されていることを示している。

11) コウチュウ目

本調査で最も多い15科64種を確認した。特にハムシ科・ゾウムシ科・テントウムシ科の種数が多かった。これは、植物食のハムシ・ゾウムシ科を支える植物相が残されていることを示している(植栽・街路樹等)。一方、肉食・菌類食のテントウムシ類の種数も多かったことから、調査地点周辺において、捕食対象となる生物が存在する多様な環境が維持されているといえる。

最も多くの種が確認された地点は、荒川砂町水辺公園「砂村」PESであった。特にオサムシ科の昆虫はこの地点でしか確認されなかった。飛翔能力の低い若しくは喪失したオサムシ科の昆虫は、開発等の影響を受けやすく、調査地の大幅な改変があれば生息地の喪失が懸念される。

12) ハチ目

17科46種を確認した。全体でアリ科昆虫が多く出現しており、調査地区内では捕食対象が存在する多様な環境があること、営巣する地面・樹木などが残されていることを示している。

花卉の受粉を助けるハチ類が多く、植物相の現状は安定していると推察される。

13) ハエ目

23科36種を確認し、ハナアブ科の昆虫が最も多かった。ハナアブ科は花卉の受粉を助ける一方、汚水などから発生する種も含むので、調査区内が都市と樹林、草地が入り混じった環境であることを示している。また、ショウジョウバエ科や、ヒメイェバエ科など、人の生活に近い場所(残飯等から発生)から発生するものも、多くの地点で確認した。

14) チョウ目

14科29種を確認した。ヤマトシジミ、モンキチョウ、シロオビノメイガといった草地環境に生息する種やクロアゲハ、サトキマダラヒカゲ、ユウマダラエダシャクといった林縁部に由来する種などを多く確認した。

荒川砂町水辺公園PESで特定外来種のアカボシゴマダラを確認した。今後分布を拡大する可能性があるため、注意が必要である。

(2) 調査地点別調査結果

調査時点別の状況は以下のとおりである。

1) 釜屋堀公園 PES

9 目 33 科 50 種を確認。注目種は確認されなかった。

ハチ目、ハエ目、コウチュウ目、カメムシ目の順で出現種数が多かった。湿生の草地と池、数本の高低木が入り混じる環境であり、植物層が単純だったためか、出現種数が少なく、特定の種(ツマグロオオヨコバイ)を多く確認した。

主な確認種：ヒメアリ、ヒトスジシマカ、サビキコリ、ツマグロオオヨコバイ、ヤマトシジミ

2) 亀高小学校 PES

9 目 43 科 70 種を確認。注目種は確認されなかった。

ハエ目、ハチ目、コウチュウ目、カメムシ目が多く、トンボ類も確認した。高木、草本、浅い池がある環境など多様な環境や植生が存在しており、多様な種が出現した。

主な確認種：ヒラタアブ類、クロヤマアリ、ムーアシロホシテントウ、アブラゼミ、シオカラトンボ

3) 清澄庭園

8 目 46 科 68 種を確認。注目種は確認されなかった。

ハエ目、ハチ目、カメムシ目が多く出現し、チョウ類の飛翔個体数も多かった。

広域の池と芝地、樹林環境が入り混じる環境で、古くから存在する庭園であるため、環境の変化が少ないと推測される。

主な確認種：ヒトスジシマカ、キイロシリアゲアリ、アメイロアリ、アオバハゴロモ、アオスジアゲハ

4) 富岡八幡宮

9 目 29 科 50 種を確認。注目種としてハグロトンボと、ヒグラシの 2 種を確認した。

ハチ目、コウチュウ目、カメムシ目を多く確認した。豊富な水量をたたえる池と小川、裸地が多い境内、落ち葉の積もる樹林で構成され、水域と樹林を代表する注目種 2 種が確認された。

主な確認種：アミメアリ、サビキコリ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ヒトスジシマカ

5) 仙台堀川公園 PES

9 目 51 科 81 種を確認した。注目種としてショウリョウバッタモドキを確認した。

ハエ目、ハチ目、カメムシ目が多く、チョウ・バッタ・トンボ類の個体数も多かった。

草丈の高い草地や池のほか、樹高の高い林で構成される環境で植物相が豊富であるほか、人の出入りに制限を設けているためか、多様な種と草地に依存する注目種を確認した。

主な確認種：ニクバエ類、キイロシリアゲアリ、ツクツクボウシ、キマダラセセリ、カネタタキ、アオモンイトトンボ、ナツアカネ

6) 荒川砂町水辺公園「砂村」PES

8目67科118種を確認した。注目種としてヒゲシロスズを確認した。

最も出現種数が多かった地点で、特に6目(コウチュウ、ハチ、カメムシ、ハエ、チョウ、バッタ)の昆虫を多く確認した。荒川河川敷に隣接する草地と、低木が混在する環境で、草地に生息する注目種が確認された。荒川流域から生物が流入しやすいため、多様な昆虫類が生息していると推測される。

主な確認種：アオドウガネ、オサムシ類(この地点のみ確認)、アリ類、ブチヒゲカメムシ、ハナアブ類、シバズ

7) 荒川砂町水辺公園 PES

8目41科65種を確認した。注目種としてマツムシとヒゲシロスズを確認した。

荒川砂町水辺公園「砂村」PESの下流域にあたる地点で、特に5目(コウチュウ、カメムシ、ハエ、バッタ、ハチ)の昆虫と、シオカラトンボが多く出現した。⑥と同様に草地と、低木が混在する環境で、草地に住む注目種も2種確認したが、特定外来生物のアカボシゴマダラの生育も確認された。種数が「砂村」PESより少ないのは低木が少なく、やや植物相が単純だったことが要因と推測される。

主な確認種：シロテンハナムグリ、ハマベアワフキ、ハナアブ類、コバネイナゴ、ヒメハナバチ類、シオカラトンボ

8) 新砂下水道用地

10目37科57種を確認した。注目種は確認されなかった。

カメムシ目、バッタ目が多く出現し、チョウ類の個体数も多かった。海辺の河口部に隣接する広大な草地で、草丈が高く少数の低木が混在する環境で、出現した昆虫類は草地に依存する種が主であった。

主な確認種：ハマベアワフキ、ブチヒゲカメムシ、ベニシジミ、シロオビノメイガ

9) 潮見さざなみ公園 PES(海辺に隣接)

11目49科82種を確認した。注目種は確認されなかった。

ハチ目、コウチュウ目、ハエ目を多く確認した。常緑樹と乾燥した草地、粘土質の湿地が入り混じる環境で、海辺に近い場所を好むハマベアワフキ、イソアシナガアリや、花の蜜を吸いに来る飛翔性の昆虫も確認された。

主な確認種：キンケハラナガツチバチ、イソアシナガアリ、ハナアブ類、ハマベアワフキ、サトキマダラヒカゲ

10) 若洲橋周辺(海岸付近)

10目31科43種を確認した。注目種は確認されなかった。

最も出現種数が少なかった地点。ハチ目、カメムシ目が多く出現し、ハマベハサミムシやアキアカネの個体数も多かった。人の頭大の岩で形成される海岸と、低木と草丈の高い草地がある環境で、他地点に比べ植物相が単純であるため、出現種数が少なかったと推測される。

主な出現種：アリ類、ハマベアワフキ、ハサミムシ、アキアカネ、オオカマキリ

4.5.2 調査結果のまとめ

(1) 広い範囲で確認した昆虫類

広い範囲（10 地点中 6 地点以上）で確認された種を表 4.5.2 に示す。

表に示す 32 種のうち、全ての地点で確認された種はクロヤマアリ及びヤマトシジミの 2 種で、9 地点で確認された種はシオカラトンボ、アミメアリ、ヒトスジシマカ、シロオビノメイガの 4 種であった。

一方、1 地点でのみ確認された種は、全 247 種の約半数にあたる 113 種であった。

表 4.5.2 広い範囲で確認した種

科名	種名	① 釜屋掘公園 P E S	② 亀高小学校 P E S	③ 清澄庭園	④ 富岡八幡宮	⑤ 仙台堀川公園 P E S	⑥ 荒川砂町水辺公園「砂村」 P E S	⑦ 荒川砂町水辺公園 P E S	⑧ 新砂下水道用地	⑨ 潮見さざなみ公園 P E S	⑩ 若洲橋	確認地点数
アリ	クロヤマアリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
シジミチョウ	ヤマトシジミ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
トンボ	シオカラトンボ		○	○	○	○	○	○	○	○		9
アリ	アミメアリ			○	○	○	○	○	○	○	○	9
カ	ヒトスジシマカ		○	○	○	○	○	○		○	○	9
メイガ	シロオビノメイガ		○	○	○	○	○	○	○	○		9
イトトンボ	アジイトトンボ		○	○		○	○	○	○			8
コオロギ	エンマコオロギ		○	○		○	○	○	○		○	8
カネタタキ	カネタタキ		○	○		○	○	○	○	○	○	8
オンブバッタ	オンブバッタ		○	○		○	○	○	○	○		8
アリ	トビイロシワアリ		○	○	○	○	○	○	○	○		8
ヒメイエバエ	ヒメイエバエ科の一種		○	○	○	○	○	○			○	8
ニクバエ	センチニクバエ		○	○	○	○	○				○	8
グンバイウンカ	アワダチソウグンバイ		○		○	○	○			○	○	7
セミ	アブラゼミ		○	○	○	○	○			○		7
ヨコバイ	ヨコバイ科の一種		○	○	○	○	○		○	○		7
ヒメヘリカメムシ	ブチヒゲヘリカメムシ (ブチヒメヘリカメムシ)		○				○	○	○	○	○	7
アリ	アメイロアリ		○	○	○	○	○			○		7
ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ		○	○	○	○				○	○	7
セセリチョウ	イチモンジセセリ			○	○	○	○		○		○	7
コオロギ	ハラオカメコオロギ			○	○		○		○	○		6
アワフキムシ	ハマバアワフキ					○	○	○	○	○	○	6
コメツキムシ	サビキコリ		○		○		○	○		○		6
ヒメバチ	ヒメバチ科の一種			○	○	○	○		○	○		6
アリ	オオハリアリ		○		○		○			○	○	6
	ウメマツオオアリ					○	○	○		○	○	6
	ハヤシケアリ		○		○		○		○	○		6
	サクラアリ		○	○		○				○	○	6
ハナアブ	ミナミヒメヒラタアブ		○	○		○	○	○		○		6
イエバエ	イエバエ科の一種		○			○		○		○	○	6
ニクバエ	ナミニクバエ		○	○		○	○	○			○	6
アゲハチョウ	アオスジアゲハ		○	○	○		○		○		○	6

(2) 確認した注目種(RDB 種)

今回の調査で確認した注目種は、環境省レッドリスト（2019年1月版）と、東京都の保護上重要な野生生物種区部編(2013年3月版)を基に選定した。表 4.5.3 に示す通り、注目種として3目5科5種を確認した。

- ・ハグロトンボ(都 VU)
平地や丘陵地の流れの穏やかな水域に生息する。夏季調査時に富岡八幡宮で確認した。
- ・ショウリョウバッタモドキ(都 VU)
比較的湿生の草地に生息する。夏季及び秋季調査時に仙台堀川公園で確認した。
- ・ヒゲシロスズ(都 DD)
比較的草丈のある草地に生息する。秋季調査時に荒川砂町水辺公園「砂村」PES と荒川砂町水辺公園 PES で確認した。
- ・マツムシ(都 CR)
河川敷、林縁などの比較的草丈のある草地に生息する。秋季調査時に荒川砂町水辺公園 PES で確認した。
- ・ヒグラシ(都 NT)
主に薄暗い樹林内に生息する。夏季調査時に富岡八幡宮で確認した。

表 4.5.3 確認した注目種

No.	目名	科名	和名	①	②	③	④	⑤	PES	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	選定基準		
				金屋掘公園 PES	亀高小学校 PES	清澄庭園	富岡八幡宮	仙台堀川公園 PES	荒川砂町水辺公園「砂村」	荒川砂町水辺公園 PES	新砂下水道用地	潮見さざなみ公園 PES	若洲橋	①	②		
1	トンボ	カワトンボ	ハグロトンボ				○									VU	
2	バッタ	バッタ	ショウリョウバッタモドキ					○								VU	
3		コオロギ	ヒゲシロスズ						○	○						DD	
4		マツムシ	マツムシ							○						CR	
5	カメムシ	セミ	ヒグラシ				○									NT	
		3目	5科	5種			0	0	0	2種	1種	1種	2種	0	0	0	5

・分類及び種名は、「日本産野生生物目録-無脊椎動物編II-(1995年、環境庁)」に準拠した。

注目種選定基準凡例

① 環境省レッドリスト2019

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群指定のある種

② 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドデータブック～2010年(2013年5月修正版)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

4.5.3 前回調査結果(2005年9月～2006年5月)との比較

前回調査で確認された昆虫類は11目109科383種であった一方、今年度調査で確認した昆虫類は14目111科247種で、前回調査よりも136種少ない結果となった。

目別の比較では、今回調査で前回確認されていないカゲロウ目(1種)、シロアリ目(1種)、アザミウマ目(1種)が確認された。目別の種数に変化が見られたのは初夏に多く確認される傾向があるハチ目(前回から28種減)、ハエ目(前回から31種減)、チョウ目(前回から30種減)の3目であった。

今年度は5月調査を実施していないため実施回数は1回少なく、初夏に確認される種が含まれていないことが、種数が減少した主な要因であると考えられる。

重要種について前回調査結果と比較すると、前回調査時は11種、今回調査時は5種で6種減少した。なお、前回調査時と今回調査で共通する重要種はショウリョウバッタモドキ1種で、継続的に確認されている重要種は少ないことが明らかとなった。

広い範囲で確認した昆虫類のうち、前回調査時に全ての地点で確認されたアキアカネ、クロヤマアリ、ヤマトシジミのうち、クロヤマアリ、ヤマトシジミの2種は今回調査時にも全地点で確認された。

一方、アキアカネは前回調査時の半分となる5地点での確認にとどまった。この理由としては、昆虫類は発生状況に年変動があるほか、東京都の稲作付面積が前回調査時は230haであったのに対し、今年度は133haで約4割減少している。そのため、アキアカネの再生産の場が減少し、周辺地域から江東区への流入個体数が減少した可能性も考えられる。

なお、前回の詳細な調査結果が得られていないことから「累計確認種数」、「前回調査で確認されておらず今回新たに確認した種」、「前回調査で確認され今回の調査で記録されなかった種」など、詳細な比較はできなかった。

5. 今後の課題

5.1 緑視率調査

本緑視率調査は、「江東区C I Gビジョン」（平成24年7月）に掲げた平成31年目標値である緑視率22%への達成度合いを確認する重要な調査である。今後も江東区C I Gビジョンによって緑視率の目標値が設定されるか現時点では未定であるが、区内における緑視率の増減を把握する重要な調査であることに変わりはない。この観点から、以下の3つについて課題を整理した。

5.1.1 調査時期の統一

前回調査は平成23年度～25年度の3ヶ年に分かれて実施された。調査時期は以下に示すように9月～11月であった。今年度調査は主に8月～9月に実施し、剪定範囲のみ10月に実施した。

区内の街路樹や緑化樹木、公園内等の樹木は広葉樹が多いことから、落葉の影響を受け、樹木の本数等に変化がないにもかかわらず、緑視率が大きく変化する可能性がある。

経年比較を行う前提であれば、可能な限り同一の調査時期に実施することが望ましい。

表 5.1.1 過年度及び今年度調査における調査実施日

調査年度	前回調査			今年度調査
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成30年度
調査日	10月9日-16日	9月4日 9月11日-13日 9月18日-22日 10月19日	10月-11月※2	8月6日-10月12日

※1：報告書本文に記載がないため、写真撮影日から推定、※2：日にち不明

5.1.2 調査方法の統一

前回調査では、片側 2 車線以上の調査箇所では左右の各車線の中央から写真を撮影し、その平均値をその地点の緑視率としていた箇所があったが、今年度の調査では中央部 1 箇所のみで撮影を行い、1 枚の写真から算出された緑視の値をその地点の緑視率とした。

この調査方法変更により実際の緑視率より増加もしくは減少した箇所がみられた。可能な限り同一の調査方法で実施することが望ましい。



調査方法による緑視率の差異の例（豊洲五丁目「4-24-3」）

5.1.3 新たな調査方法の検討

緑視率の撮影は、前回調査時と同じ調査箇所、前回調査と同じ撮影図郭で実施することが前提となっている。調査箇所については位置情報があるため概ね間違いはないが、撮影図郭の設定には建築物や道路、電信柱、横断歩道などランドマークを基準とする。ランドマークが変わると以下の例のように図郭設定が難しく、正確な経年比較が困難になる可能性がある。

さらに緑視率の撮影は交差点内で実施する。市街地では歩行者が、港湾地区などの南部では車両がひっきりなしに行き交う場所である。調査箇所は信号がある箇所もあればない箇所もあり、調査員や調査補助員が前後左右を見つつ、過年度の図郭を確認しながら、撮影図郭を決定する。

撮影図郭の設定に加え、調査員や調査補助員の安全確保の観点からも、車載用の全周囲画像撮影カメラによる調査など、新たな調査方法の検討が望まれる。



道路や建築物の新設によって図郭設定が困難な例（有明一丁目「4-60-2」）



車載カメラによる全周囲画像の撮影例

5.2 緑視率調査以外の調査

緑視率調査以外の調査として、今年度は緑化状況調査、現況植生調査、鳥類現況調査及び昆虫類現況調査を実施した。これらの調査はいずれも、区内における自然環境を定期的に記録し、その変化を把握する上で重要な調査であることから、以下に課題を整理した。

5.2.1 調査時期の統一

今年度調査は業務着手が7月となり、前回調査時期である5月の調査が実施できなかった。その結果、前回調査と比較して確認種数が減少する傾向が見られた。そのため、モニタリング調査という特性を考慮し、次回調査以降は既往調査と調査時期を統一することが望ましい。

